

AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド

ユーザアカウントツール編

第 1 4 版

■対象製品

このマニュアルの対象製品は AX-Networker's-Utility (ユーザアカウントツール Version 1.9)です。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標一覧

IPX は、Novell,Inc.の商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル Core は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

そのほかの記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ご注意

このマニュアルの内容については、改良のため、予告なく変更する場合があります。

■発行

2020年 3月 (第14版)

■著作権

All Rights Reserved, Copyright(C), 2011, 2020, ALAXALA Networks, Corp.

変更内容

【Ver. 1.9】

表 変更履歴

章・節・項・タイトル	追加・変更内容
1.3 利用環境	表 1-3 装置側環境で, 対象ソフトウェアバージョンを更新しました。 表 1-4 ユーザアカウント管理 PC 側環境で, 以下を更新しました： ・動作確認済みJava実行環境を更新

なお, 単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

■対象製品およびツールバージョン

このマニュアルは AX-Networker's-Utility (ユーザアカウントツール) を対象に記載しています。また、ツールバージョン Ver. 1.9 の機能について記載しています。操作を行う前にこのマニュアルをよく読み、書かれている指示や注意を十分に理解してください。また、このマニュアルは必要なときにすぐ参照できるよう使いやすい場所に保管してください。

■対象読者

本製品を利用したネットワークシステムを構築し、運用するシステム管理者の方を対象としています。また、次に示す知識を理解していることを前提としています。

- ネットワークシステム管理の基礎的な知識
- 装置に関する基礎的な知識

■このマニュアルの URL

このマニュアルの内容は下記 URL に掲載しております。

<http://www.alaxala.com/>

■このマニュアルでの表記

略語を以下に示します。

API	Application Programming Interface
AXCM	Alaxala Config Master (AX-Config-Master)
CA	Certificate Authority
CLI	Command Line Interface
CSV	Comma Separated Values
DB	Data Base
GUI	Graphical User Interface
HTTP	HyperText Transfer Protocol
ID	Identifier
IP	Internet Protocol
IPv4	Internet Protocol version 4
IPv6	Internet Protocol version 6
IPX	Internetwork Packet Exchange
JRE	Java SE Runtime Environment
L2	Layer 2
L3	Layer 3
LAN	Local Area Network
LLDP	Link Layer Discovery Protocol
MAC	Media Access Control
OAN	Open Autonomic Networking
ON	Open Networking
PC	Personal Computer
SDK	Software Development Kit
SFP	Small Form factor Pluggable
SMTF	Simple Mail Transfer Protocol

SQL	Structured Query Language
SSL	Secure Socket Layer
TCP	Transmission Control Protocol
TLS	Transport Layer Security
VLAN	Virtual LAN
VRF	Virtual Routing and Forwarding
XFP	10 gigabit small Form factor Pluggables
XML	Extensible Markup Language

製品の正式名称と、このマニュアルでの表記を次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
Java SE Runtime Environment	Java
Java SE Development Kit	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise Operating System	Windows Server 2008 R2 または Windows
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard Operating System	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard Operating System	Windows Server 2012 R2 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Professional	Windows 7 または Windows
Microsoft® Windows® 7 Enterprise	
Microsoft® Windows® 7 Ultimate	
Microsoft® Windows® 8.1 Pro	Windows 8.1 または Windows
Microsoft® Windows® 8.1 Enterprise	
Microsoft® Windows® 10 Pro	Windows 10 または Windows
Service Pack	SP

■KB(バイト)等の単位表記について

1KB(キロバイト), 1MB(メガバイト), 1GB(ギガバイト), 1TB(テラバイト)はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 × 1,024 バイト, 1,024 × 1,024 × 1,024 × 1,024 バイトです。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について説明します。

記号	説明
[] (角括弧)	メニュー名, 画面名, またはフィールド名を表します。 メニュー名を表す場合は, 上位メニューから下位メニューへとメニューが階層化されていて, 下位のメニューを示す場合は, 上位と下位のメニュー名の間をハイフンでつないで表記します。 例: [ファイル] - [終了] 画面名を表す場合は, 角括弧内に画面名を表記します。 例: [IP アドレスの入力] 画面 フィールド名を表す場合は, 角括弧内にフィールド名を表記します。 例: [IP アドレス] 欄
[] (きつ甲)	ダイアログボックス内のボタン名を表します。 ダイアログボックス内のボタン名は, 括弧内にそのボタンのラベル名を表記します。 例: [終了] ボタン

目次

1. はじめに	1
1.1 こんなことができます	2
1.2 収容条件	13
1.3 利用環境	14
1.4 注意事項	16
2. 準備	19
2.1 ユーザアカウントツールのインストール	20
2.2 装置の設定を行う	22
2.3 ユーザアカウント管理 PC の設定を行う	24
3. 装置アカウント情報更新	26
3.1 装置を登録する	27
3.2 装置のアカウント情報を収集して表示する	44
3.3 アカウントマスタの作成	48
3.4 装置のアカウント情報の反映	67
4. ツールの設定ファイル	72
4.1 設定ファイル	73
5. トラブルシューティング	78
5.1 トラブル発生時の対応	79
5.2 メッセージ一覧	81
5.3 ログファイル	98

1. はじめに

この章では、ユーザアカウントツールの概要について説明します。

[1.1 こんなことができます](#)

[1.2 収容条件](#)

[1.3 利用環境](#)

[1.4 注意事項](#)

1.1 こんなことができます

AX-Networker's-Utility (ユーザアカウントツール) は、ネットワーク上に存在する複数装置のユーザアカウント情報を 1 台のサーバで集中的に管理できる機能を提供します。

- 装置のユーザアカウント情報をアカウントマスタとして編集し、それをグループ内の複数装置へ設定する機能を提供します。アカウントマスタは、GUI で編集し、保存できるので、ユーザアカウント情報を 1 台のサーバで、集中管理することが可能です。また、広域・多拠点に分散する管理対象装置の台数が多い場合や、セキュリティポリシーによって定期的に装置のユーザアカウント情報を更新する必要がある場合に、装置上のアカウント情報を同期する手間や間違いを大幅に排除できるため、作業者の負荷を軽減できます。
- 編集したアカウントマスタを装置に反映した日時を記録する機能を提供します。本機能により、更新した日からの経過日数が分かるので、一定期間毎に装置上のユーザアカウントを更新したい場合に、更新の目安が分かります。
- アカウント情報のインポート/エクスポート機能を提供します。インポート機能では、既にスプレッドシートなどのアプリケーションで管理しているアカウント情報をユーザアカウントツールへ取り込むことが可能です。エクスポート機能では、ユーザアカウントツールが管理するアカウントマスタを CSV 形式で、ファイルに出力することが可能です。
- 装置のユーザアカウント情報を収集する機能を提供します。本機能により、本ツールを初めて使う管理者に対し、装置にバラバラに設定されているユーザアカウント情報を取得することを可能にします。また、他の管理者が、装置に対して、ツールを使わずにユーザアカウントを作成したことが、分かります。

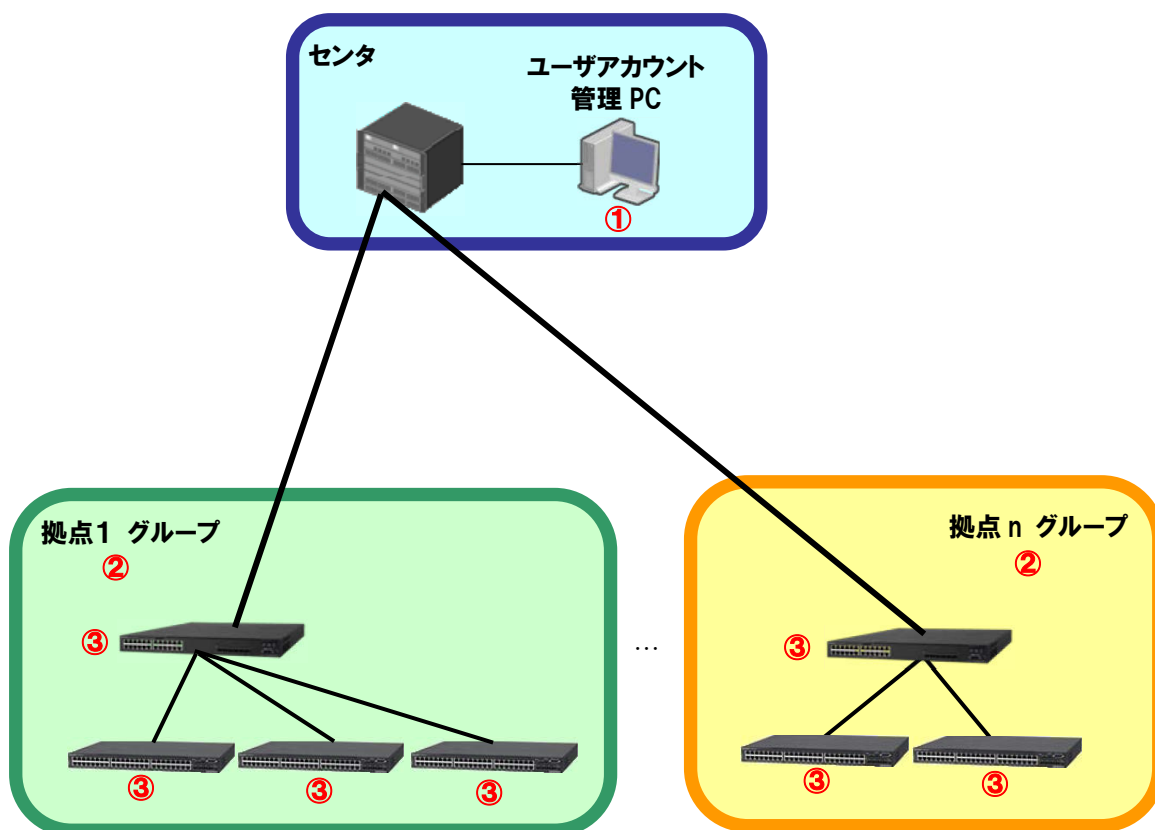
以上のような機能により、複数装置に設定されているユーザアカウントをアカウントマスタとして集中管理し、定期的または任意の期間毎のユーザアカウント更新で手順の間違いや大幅な作業負荷の削減を行えるようになります。

1.1.1 ユーザアカウントツール構成

ユーザアカウントツールの構成を図に示します。

(1) 物理構成

図 1-1 ユーザアカウントツールの構成



物理構成における構成要素を以下に示します。

① ユーザアカウント管理 PC

AX-Networker's-Utility (ユーザアカウントツール) をインストールした PC です。各装置で利用可能なユーザアカウント情報 (ユーザ名, パスワード, enable のパスワード) を作成し, 配布します。また, 各装置に設定されているアカウント情報 (ユーザ名) を収集し, 一覧表示します。

② グループ

ユーザアカウント管理 PC からユーザアカウント情報を配布する操作単位です。また, 装置からユーザアカウント情報を収集する際の操作単位でもあ

ります。なお、グループへは複数の種類の装置を複数台登録することができます。

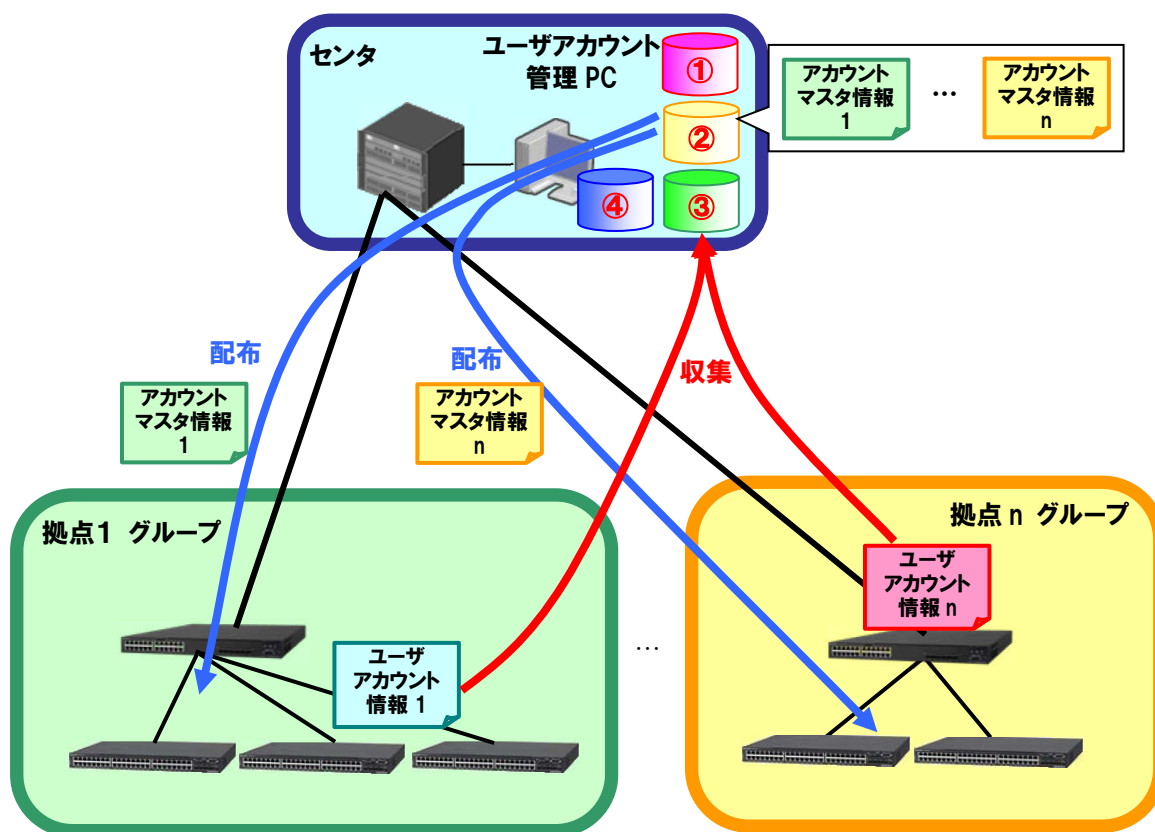
③ 装置

ユーザアカウント情報を設定配布、収集する対象の装置です。

(2) 利用する情報

ユーザアカウント情報の管理に利用する情報を以下に示します。

図 1-2 ユーザアカウントツールの構成（利用する情報）



① 装置情報ファイル

グループとグループに所属する装置の情報を記載した、CSV 形式のファイルです。ユーザアカウントツールから、グループ、装置の登録を行って作成

するか、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタで作成します。ユーザアカウントツールから装置情報ファイルを開き、読み込みに成功、またはユーザアカウントツールから装置情報ファイルの保存に成功すると、ユーザアカウントツールの次回起動時から、読み込みまたは保存に成功した装置情報ファイルを自動的に読み込みます。

② アカウント情報ファイル

全グループのアカウントマスタを格納している CSV 形式のファイルです。アカウントマスタは、各グループに1つずつ存在するアカウント情報のリストで、最大でユーザアカウントを9個および enable のパスワードを1個定義できます。このアカウント情報は、アカウントの種別、ユーザ名、パスワード、enable のパスワードの4つの情報で構成されています。アカウントマスタはグループに所属する装置へ配布および設定されます。

アカウント情報ファイルは、ユーザアカウントツール上で入力して作成するか、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタで作成します。作成方法の詳細については「[3.3 アカウントマスタの作成](#)」を参照してください。

③ ユーザアカウント情報

装置上に登録されているユーザアカウント情報です。装置のユーザアカウントとしては、ユーザ名の一覧を取得できます。なお、パスワードおよび enable のパスワードは取得できません。装置からユーザアカウント情報を取得し、表示する操作の詳細については「[3.2 装置のアカウント情報を収集して表示する](#)」を参照してください。

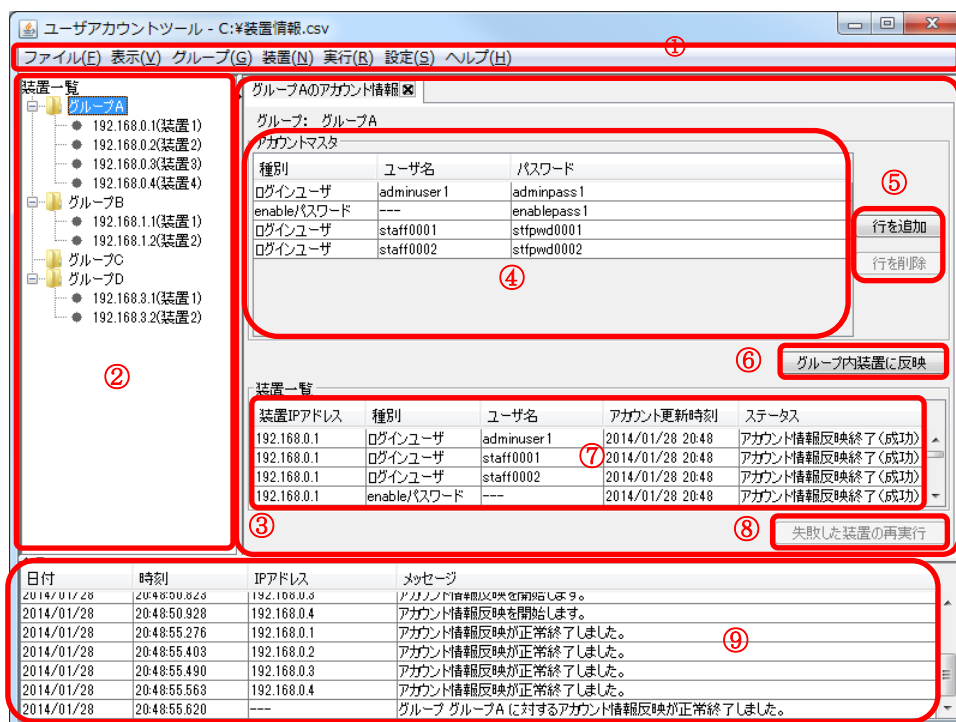
④ アカウント情報インポート/エクスポートファイル

ユーザアカウントツールでは、ある任意のグループにひも付けられたアカウント情報を、インポートまたはエクスポートできます。アカウント情報インポート/エクスポートファイルは、アカウント情報のインポートおよびエクスポートで利用する、1グループ分のアカウント情報（アカウントマスタ）を記述した CSV ファイルです。インポートおよびエクスポート操作の詳細については「[3.3.2 アカウントマスタのインポート](#)」，「[3.3.3 アカウントマスタのエクスポート](#)」を参照してください。

1.1.2 画面構成

ユーザアカウントツールの画面構成を以下に示します。

図 1-3 ユーザアカウントツールの画面構成



画面を構成する要素の説明を以下に示します。

① メインメニュー

ユーザアカウントツールの操作を行うためのメニュー項目が定義されています。

② 装置一覧ツリー

装置をグループ毎にツリー表示します。グループの追加/変更/削除, 装置の追加/変更/削除, アカウント情報取得を実行できます。グループノードをマウスの左ダブルクリックすることで, グループに対応するアカウント情報をアカウント情報一覧へ表示できます。

③ アカウント情報一覧

グループ毎のアカウントマスタを表示して編集することや装置から収集したアカウント情報をタブの中に一覧表示することができます。不要になっ

たタブは、タブの [×] ボタンで消すことができます。

④ アカウントマスタテーブル

装置へ設定，配布するユーザアカウント情報のマスタを登録しておくテーブルです。アカウントマスタ情報の編集にはこのテーブルを使用します。ヘッダーをクリックするとクリックした列の内容でソートできます。アカウントマスタテーブルの表示項目は以下の通りです。

表 1-1 アカウントマスタテーブルの表示項目

表示項目	説明
種別	アカウントマスタで定義するアカウント情報の種別です。以下の 2 つのいずれかを指定します： <ul style="list-style-type: none">・ログインユーザ・enable パスワード 1 つのアカウントマスタには，最大でログインユーザが 9 個，enable のパスワードが 1 個，合計で 10 個のアカウント情報を定義できます。
ユーザ名	種別がログインユーザの場合，ユーザ名を 1～16 文字の半角英数字（ただし，1 文字目は英字，2 文字目以降は英数字）で指定します。 種別が「enable パスワード」の場合，"---"が表示され指定できません。
パスワード	種別がログインユーザの場合，ユーザ名に対するパスワードを指定します。また，種別が「enable パスワード」の場合，enable のパスワードを指定します。enable のパスワードは，アカウントマスタ内で最大 1 個まで定義できます。 1～128 文字の半角英数字・半角記号(ASCII コードで 0x20～0x7e の文字)で指定します。

⑤ 行追加・行削除ボタン

アカウントマスタテーブルへアカウント情報を追加する際に行を追加する操作やアカウントマスタテーブルで不要になったアカウント情報を選択して削除する操作を行います。

⑥ グループ内装置に反映ボタン

アカウントマスタテーブルに登録されているアカウント情報を装置へ反映し、装置上のアカウント情報をアカウントマスタテーブルの内容に同期させます。具体的には以下の動作を行います：

- ・ アカウントマスタテーブルに登録されていて、装置にも登録されているアカウント情報は、装置上のそのアカウント情報のパスワードが更新されます
- ・ アカウントマスタテーブルにのみ登録されていて、装置に登録されていないアカウント情報は、装置上にそのアカウント情報が追加されます
- ・ アカウントマスタテーブルに登録されておらず、装置のみに登録されているアカウント情報は、装置上からそのアカウント情報が削除されます

⑦ 装置一覧テーブル

装置から収集したアカウント情報を一覧表示します。また、アカウントマスタを装置へ設定、配布した結果や実行中の状態をステータスとして表示します（操作が失敗した装置がある場合、その行はピンク色で表示されます）。ヘッダーをクリックするとクリックした列の内容でソートできます。装置一覧テーブルの表示項目は以下の通りです。

表 1-2 装置一覧テーブルの表示項目

表示項目	説明
装置 IP アドレス	装置の IP アドレス（10 進ドット記法の IPv4 アドレス）です。 初期値は空欄です。
種別	アカウント情報の種別です。以下の 2 つのいずれかを表示します： ・ ログインユーザ

	<ul style="list-style-type: none"> • enable パスワード <p>初期値は空欄です。</p>
ユーザ名	<p>種別がログインユーザの場合、ユーザ名を 1～16 文字の半角英数字 (ただし, 1 文字目は英字, 2 文字目以降は英数字) で表示します。</p> <p>種別が「enable パスワード」の場合, "---"が表示されます。</p> <p>初期値は空欄です。</p>
アカウント更新時刻	<p>ユーザアカウント情報反映操作で, ある 1 装置のユーザアカウント情報のすべてが反映成功の場合, アカウント更新時刻を表示します。</p> <p>YYYY/MM/DD hh:mm</p> <p>YYYY…年 (例: 2011)</p> <p>MM…月 (例: 08)</p> <p>DD…日 (例: 09)</p> <p>hh…時 (例: 03)</p> <p>mm…分 (例: 21)</p> <p>アカウントが一度も更新成功していない場合には, "---"を表示します。</p>
ステータス	<p>装置に対するアカウント情報操作を行っている際, 以下の操作状態を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • "アカウント情報取得中" • "アカウント情報取得終了 (失敗) " • "アカウント情報取得終了 (成功) " • "アカウント情報反映中" • "アカウント情報反映終了 (失敗) " • "アカウント情報反映終了 (成功) " <p>初期値は空欄です。</p>

⑧ 失敗した装置の再実行ボタン

グループ内装置に反映ボタンまたは失敗した装置の再実行ボタンを押下して装置へアカウント情報を反映した際にエラー終了した装置のアカウント

のみ、アカウント情報の反映を再実行します。

⑨ ログ情報テーブル

画面操作、処理状況を時系列に表示します。ヘッダーをクリックすると、クリックした列の内容でソートできます。

1.1.3 使用例

本節では、各ユースケースに応じた、ユーザアカウントツールの使用例を説明します。

例 1：多数の装置のユーザアカウント情報を定期的に更新したい
セキュリティポリシーで装置のユーザアカウント情報を定期的（例えば1ヶ月、数ヶ月毎）に更新する必要がある場合、装置をグループ分けして本ツールに登録しておき、作成したアカウントマスタのユーザアカウント情報を装置へ設定、配布できます。本ツールを利用することにより、以下のステップでユーザアカウント情報の定期更新を実施できます。

(1) GUI から更新対象装置に対してユーザアカウント情報を配布する

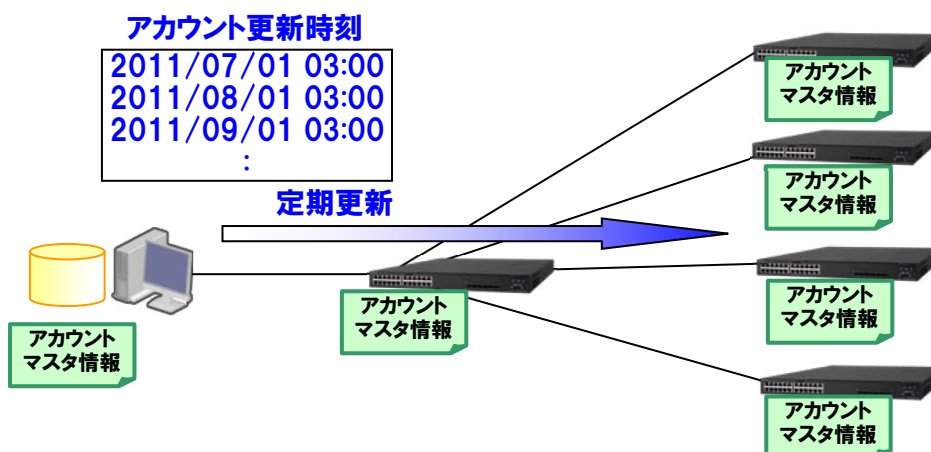
この際、ある装置に意図せず追加されたユーザアカウントを削除、またはある装置から意図せず削除されたユーザアカウントを追加し、グループ内の全装置をアカウントマスタのユーザアカウントへ合わせます（アカウントマスタを装置へ反映する）

(2) アカウントマスタの装置への反映を行った際、一覧形式で成功または失敗したユーザアカウントを確認でき、かつ失敗したユーザアカウントのみ再反映を実行する

グループ内のすべての装置のユーザアカウントが更新されると、アカウント更新時刻が更新されます。

アカウント情報時刻で前回配布からの経過期間を確認し、一定期間が経過していたら、本ツールを操作してアカウント情報を配布してください。

図 1-4 多数の装置のユーザアカウント情報を定期的に更新したい場合



例 2 : アプリケーション起動ツール等から本ツールを起動したい
コマンドライン文字列を登録してアプリケーションを起動するツール（アプリ
ケーションランチャ）等から本ツールを起動したい場合には、以下の作業ディ
レクトリ（カレントディレクトリ）およびコマンドライン文字列を指定してく
ださい。

[作業ディレクトリ]

<TARGETDIR>%UserAccountTool

[コマンドライン文字列] ※1 行で記述します

"<TARGETDIR>%UserAccountTool%UserAccountTool.bat"

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストールディレクトリ

デフォルトは C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

1.2 収容条件

ユーザアカウントツールの収容条件を示します。

(1) 同時処理数

同時に処理できる装置台数の上限は 5 台です。

(2) ログ情報テーブルのレコード数

ログ情報テーブルのレコード数の上限は 3000 エントリです。

1.3 利用環境

ユーザアカウントツールの利用環境を以下に示します。

表 1-3 装置側環境

対象装置	AX6700S/AX6600S/AX6300S/AX4600S/AX3800S/AX3600S/AX2400S
対象ソフトウェアバージョン	AX6700S/AX6600S/AX6300S…11.4.C～11.9.U AX4600S…11.11.B～11.15.G※1 AX3800S…11.6～11.14.R※1 AX3660S…12.0.A～12.1.J※1 AX3650S…11.5～11.14.R※1 AX3640S…11.4.C～11.14.R AX3630S…11.4.C～11.11.E AX2400S…11.4.C～11.7.N

※1 AX4600S/AX3800S/AX3660S/AX3650S のスタック構成時は未サポートです。

表 1-4 ユーザアカウント管理 PC 側環境

推奨 OS	32bit 版 Windows 7 Professional (x86) SP なし, SP1
※1	32bit 版 Windows 7 Enterprise (x86) SP なし, SP1
	32bit 版 Windows 7 Ultimate (x86) SP なし, SP1
	32bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x86) SP なし
	32bit 版 Windows 8.1 Pro (x86) SP なし
	32bit 版 Windows 10 Pro (x86) Version 1809
	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Standard (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows Server 2012 R2 Enterprise (x64) SP なし
	64bit 版 Windows 7 Professional (x64) SP なし, SP1
	64bit 版 Windows 7 Enterprise (x64) SP なし, SP1

	64bit 版 Windows 7 Ultimate (x64) SP なし, SP1 64bit 版 Windows 8.1 Pro (x64) SP なし 64bit 版 Windows 8.1 Enterprise (x64) SP なし 64bit 版 Windows 10 Pro (x64) Version 1809
CPU	インテル Core 2 Duo 以上
メモリ	2GB 以上
HDD	1.9GB 以上
Java 実行環境	JRE 8※2 Oracle JDK 11(LTS)※2

※1 Linux 等推奨環境以外でも動作します（動作保証外です）

※2 動作確認済みの Java 実行環境は以下になります。

- ・ JRE 8 Update 241
- ・ JDK 11.0.2～11.0.6

上記より新しいアップデートリリースについては動作保証外になります。

1.4 注意事項

ユーザアカウントツールを利用する上での注意事項を以下に示します。

(1) ファイルパスの最大長

本ツールで扱うファイルについて、そのファイルパスの最大長は、本ツールを利用するオペレーティングシステムで決まります。そのため、オペレーティングシステムがサポートしているファイルパスの最大長を越えるようなファイルを指定しないでください。

(2) 装置情報ファイル

装置情報ファイルは AX-Networker's-Utility の他のツールと内容が異なるため、共用できません。ツール毎に装置情報ファイルの作成および保存を行うようにしてください。

(3) アカウント情報ファイル

アカウント情報ファイルにはアカウントのパスワードが含まれますが、平文で格納されています。必要に応じ、アカウント情報ファイルを暗号化して保存してください。ユーザアカウントツールで利用する際には、暗号化したアカウント情報ファイルを復号してから利用してください。

(4) 装置上に登録されているユーザアカウントの数

ユーザアカウントツールから操作する装置は、装置上に登録されているユーザアカウントの数が 9 個以内である必要があります。CLI コマンドを利用して、ユーザアカウントツール外から装置に 10 個目以上のユーザアカウントを作成した場合、ユーザアカウントツールから装置に対してユーザアカウント操作を行ってもエラーとなります。

(5) ユーザアカウント削除時の注意

ユーザアカウントツールから装置のユーザアカウントを削除すると、装置上にある、そのユーザのホームディレクトリが削除されます。ホームディレクトリに存在するファイルで、保存が必要なものはユーザの削除前にバックアップしてください。

(6) ログイン中ユーザのアカウント削除時の注意

装置のあるユーザが装置にログインしている際にユーザアカウントツールからそのログインしているユーザのアカウントを削除すると、そのユーザのログインセッションは切断されます。ユーザアカウントツールからユーザのアカウントを削除する際には、削除対象のユーザが装置にログインしていないことを確認してください。

(7) ログイン中ユーザのパスワード変更時の注意

装置のあるユーザが装置にログインしている際にユーザアカウントツールからそのログインしているユーザのパスワードを変更すると、そのユーザが再度ログインする時から変更後のパスワードが有効になります。`enable` のパスワードも同様に、装置管理者モードになっているユーザがいる状態で `enable` のパスワードを変更すると、再度装置管理者モードになる時から変更後の `enable` のパスワードが有効になります。

(8) ユーザアカウントツールをインストールした PC の時刻変更

ユーザアカウントツールをインストールした PC の時刻を変更すると、アカウント更新時刻の値が不正になり、アカウント更新時刻を、前回装置のアカウントを更新した時点からの経過期間を判断する目安として利用できなくなります。そのため、PC の時刻を変更しないようにしてください。

(9) `enable` のパスワードの更新および削除方法

`enable` のパスワードの更新を行いたい場合には、アカウントマスタテーブル上に種別が「`enable` パスワード」のアカウントマスタ情報を登録し、アカウント

情報の反映操作を行います。また、**enable** のパスワードの削除を行いたい場合には、アカウントマスタテーブル上に種別が「**enable** パスワード」のアカウントマスタ情報が存在しない状態でアカウント情報の反映操作を行います。アカウントマスタ情報として種別が「**enable** パスワード」のアカウントマスタ情報を登録していないと、意図せず **enable** のパスワードを削除することになりますので、本ツールを利用する前に装置で **enable** のパスワードを利用されている場合には、ご注意ください。

(10) 装置をデフォルトリスタートした場合の動作

デフォルトリスタート中にユーザアカウントツールから設定したログインユーザのパスワードおよび **enable** のパスワードは、装置再起動後に有効になります。

(11) ログインユーザを利用するアプリケーションへの影響

ユーザアカウントツールを利用して装置のログインユーザおよびパスワードを変更すると、装置のログインユーザおよびパスワードを利用するアプリケーションが影響を受けます。必要に応じて、アプリケーションの装置のログインユーザおよびパスワードの情報を更新してください。

2. 準備

この章では、ユーザアカウントツールを実行するために必要な事前準備について説明します。

[2.1 ユーザアカウントツールのインストール](#)

[2.2 装置の設定を行う](#)

[2.3 ユーザアカウント管理 PC の設定を行う](#)

2.1 ユーザアカウントツールのインストール

(1) インストール

AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド（インストール編）を参照し、AX-Networker's-Utility をユーザアカウント管理 PC へインストールしてください。

(2) 起動確認

インストールが完了した後、ツールの起動確認を行います。ツールを起動するには、以下の操作を行ってください。

エクスプローラから以下のファイル(※1)を右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択する。

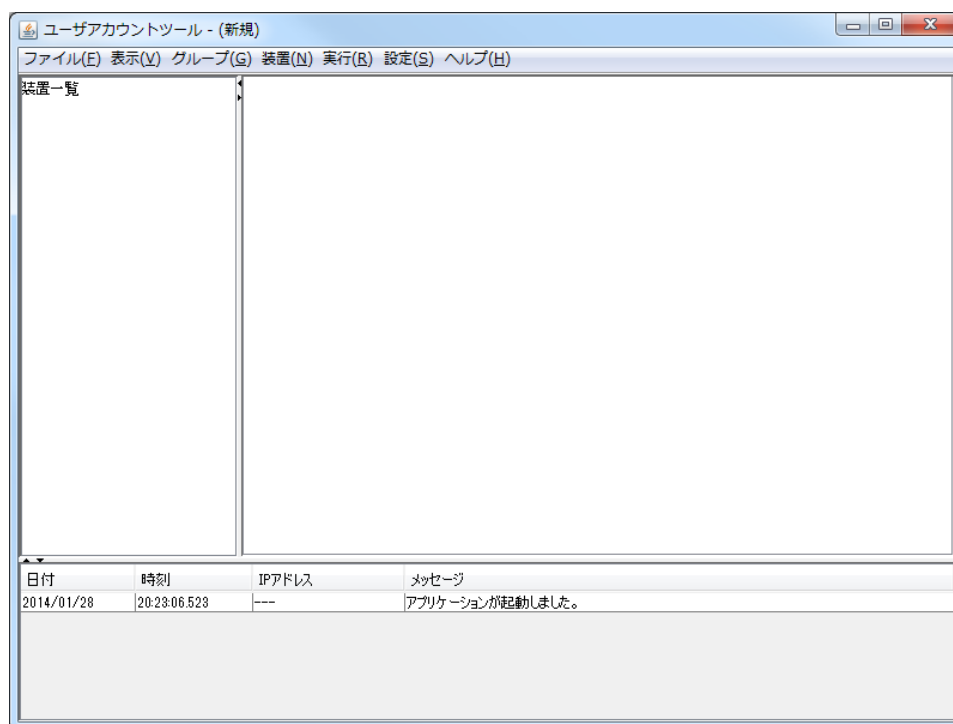
※1…<TARGETDIR>¥UserAccountTool¥UserAccountTool.bat

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:¥Alaxala¥AX-Networker's-Utility

ツールを起動すると、以下の画面が表示されます。

図 2-1 ツール起動時の画面



アプリケーションが起動した旨のログメッセージが表示されることを確認してください。

ツールの起動を確認した後、[ファイル]-[終了]メニューを選択して、一旦ツールを終了してください。

2.2 装置の設定を行う

利用を開始するにあたり、以下の準備、設定を行います。

(1) ユーザアカウント管理 PC から対象装置へ、IPv4 ネットワーク的に到達可能とします

ユーザアカウント管理 PC と対象装置が IP 通信できるように、ネットワーク接続してください。そのためには、対象装置上に IPv4 アドレスを設定します。この IPv4 アドレスはグローバルネットワーク内の IPv4 アドレスとして設定してください。また、ユーザアカウント管理 PC と対象装置の間にスイッチやルータ等のネットワーク装置が存在する場合、ユーザアカウント管理 PC と対象装置の間で通信可能なように、それらのネットワーク装置に対してルーティング設定を行います。

(2) 対象装置のコンフィグレーションを保存またはバックアップします

必要に応じて対象装置上で未保存のコンフィグレーションを保存します。または、対象装置のコンフィグレーションをバックアップします。

(3) 対象装置でアカウント情報操作機能が利用できるように、netconf 機能を有効にします

続いて、装置がユーザアカウントツールから要求を受け付けられるよう、装置側の設定を行います。装置を起動し、装置にログイン後、装置の CLI から次のコマンドを入力します。netconf 機能に関するコマンドの詳細については AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド（インストール編）の「5. 付録」をご確認ください。

```
>enable  
  
# configure  
  
!(config)# netconf  
  
!(config-netconf)# top  
  
!(config)# save  
  
(config)# exit
```

(4) 対象装置でアカウント情報操作機能が利用できるように、システムコントロール機能の管理者パスワードを設定します

ユーザアカウント操作を行いたい装置に対して、システムコントロール機能の管理者パスワードを設定してください。なお、管理者パスワードを設定する際、対象装置すべてで、管理者パスワードを統一してください。

管理者パスワードを設定するには、装置を起動し、装置にログイン後、装置の CLI から次のコマンドを入力します。なお、冗長構成の装置の場合には、次のコマンドを運用系で実行してください。ここでは管理者パスワードを `admin1111` で指定する例で説明します。管理者パスワードとして使用できる文字は半角英数字で、大文字・小文字を区別します。文字数は 6～16 文字で指定します。システムコントロール機能の管理者パスワード設定のコマンドの詳細については AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド(インストール編)の「5. 付録」をご確認ください。

```
>enable                               …装置管理者モードに移行します
# set on-api administrator password
New password: xxxxxxxx                ←admin1111 を入力してください
Retype new password: xxxxxxxx         ←admin1111 を入力してください
# exit
```

2.3 ユーザアカウント管理 PC の設定を行う

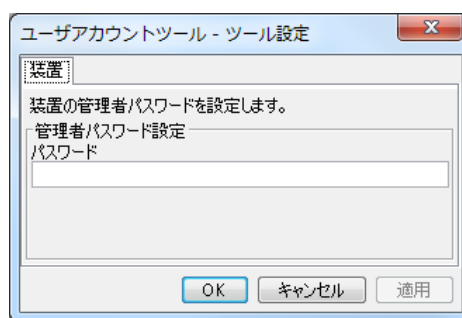
装置のアカウント情報を操作できるようにするための準備・設定を行います。

(1) 装置のシステムコントロール機能の管理者パスワードをツールへ設定する

アカウント情報操作で利用する装置のシステムコントロール機能の管理者パスワードをツールへ設定します。

ユーザアカウントツールを起動し、[設定]-[設定...]メニューを選択します。

図 2-2 ツール設定



[「2.2 装置の設定を行う \(4\) 対象装置でアカウント情報操作機能が利用できるように、システムコントロール機能の管理者パスワードを設定します」](#)で指定した、管理者パスワードを 6 文字以上 16 文字以内の半角英数字で指定してください。指定できたら [OK] ボタンを押下してください。

(2) 利用可能な最大メモリサイズを変更する

本ツールから、多くの装置に対してアカウント情報収集や反映を行うと、ツールが使用するメモリ量が利用可能な最大メモリサイズを超える場合があります。その場合には、下記の手順で本ツールが利用可能な最大メモリサイズを変更してください。

[変更手順]

①<TARGETDIR>%UserAccountTool%UserAccountTool.bat をマウスで右クリック

し、表示されたポップアップメニューから[編集]を選択します。

<TARGETDIR>…AX-Networker's-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\Alaxala\AX-Networker's-Utility

- ②表示された中身の「set PARAMETERS=-Xmx1024m -jar %JARFILE%」の「-Xmx1024m」(上記の下線部)を変更し、上書き保存します。この指定例では、ツールへ割り当てるメモリの量を 1024MB で指定しています。
- ③<TARGETDIR>\UserAccountTool\UserAccountTool.bat をマウスで右クリックし、表示されたポップアップメニューから[管理者として実行]を選択して本ツールを起動します。
- ④メモリ不足の発生した操作を再度行い、正常終了するか確認してください。メッセージ「処理中にメモリ不足エラーが発生しました。」が表示される場合には、②で指定する -Xmx1024m の 1024 をより大きな値に設定し直して再度確認してください。

3. 装置アカウント情報更新

この章では、ユーザアカウントツールの操作方法について説明します。

[3.1 装置を登録する](#)

[3.2 装置のアカウント情報を収集して表示する](#)

[3.3 アカウントマスタの作成](#)

[3.4 装置のアカウント情報の反映](#)

3.1 装置を登録する

ユーザアカウントツールで装置のアカウント情報を操作するには、まず始めに、ツール上で装置の登録を行います。装置の登録方法には、以下の3つの方法があります。

方法1：GUIから登録する（「[3.1.1 GUIから登録する](#)」参照）

方法2：装置情報ファイルから登録する（「[3.1.2 装置情報ファイルから登録する](#)」参照）

方法3：装置情報のインポート・エクスポートで登録する（「[3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート](#)」参照）

上記の方法で装置を登録し、装置情報ファイルへ保存すると、次回ユーザアカウントツールを起動した際、ツール終了前に保存を行った装置情報ファイル、または正常に読み込んだ既存の装置情報ファイルを自動的に読み込み、装置ツリー上に表示します。

なお、GUIからの操作はメニュー、メニューに設定されているキーボードショートカット(Ctrl+キー)、ボタンのいずれか任意の方法で行えます。

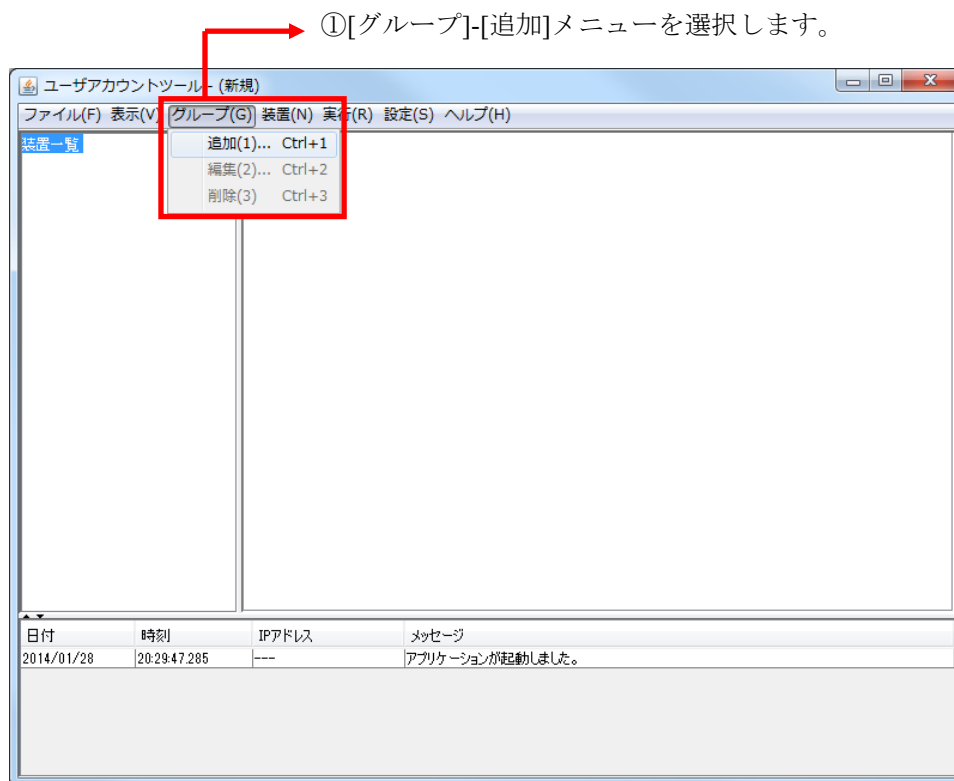
3.1.1 GUIから登録する

(1) グループを登録する

まず始めに、ツールを起動しグループの登録を行います。ツールの起動方法については、「[2.1 ユーザアカウントツールのインストール \(2\)起動確認](#)」を参照してください。

グループを登録するには、装置一覧ツリー上で[装置一覧]ノードを選択して、[グループ]-[追加]メニューを選択し、[グループ情報設定]画面を開きます。

図 3-1 グループ登録（1）



[グループ情報設定]画面を開いたら、グループ名（1～32文字）を入力し、[OK]ボタンを押下します。

[注意事項]

グループ名としてHTMLタグやタブ文字を使用しないでください。HTMLタグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されないことがあります。

図 3-2 グループ登録（2）

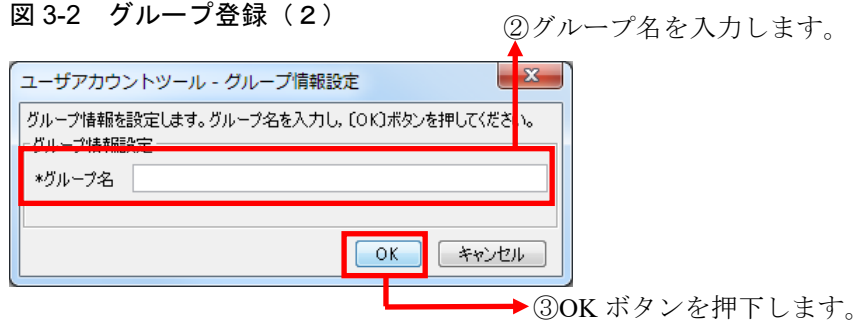
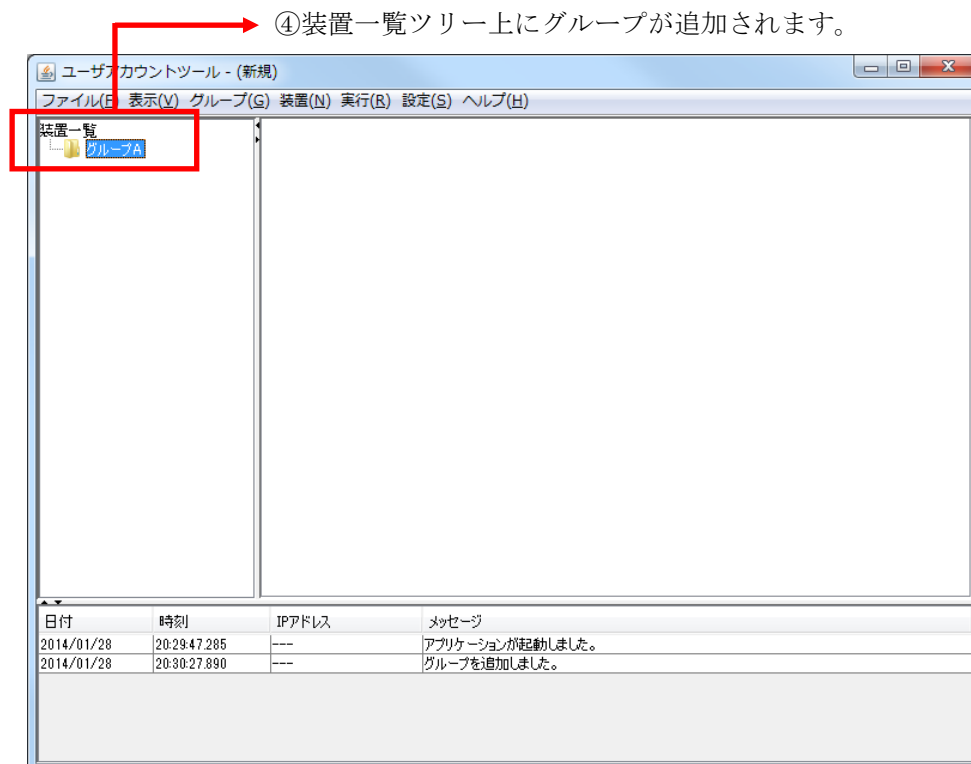


図 3-3 グループ登録 (3)



(2) グループ名を変更する／登録したグループを削除する

グループ名の変更を行うには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[グループ]-[編集]メニューを選択し、[グループ情報設定]画面を開きます。

[グループ情報設定]画面を開いたら、グループ名 (1~32 文字) を入力し、[OK] ボタンを押下します。

グループの削除を行うには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[グループ]-[削除]メニューを選択します。

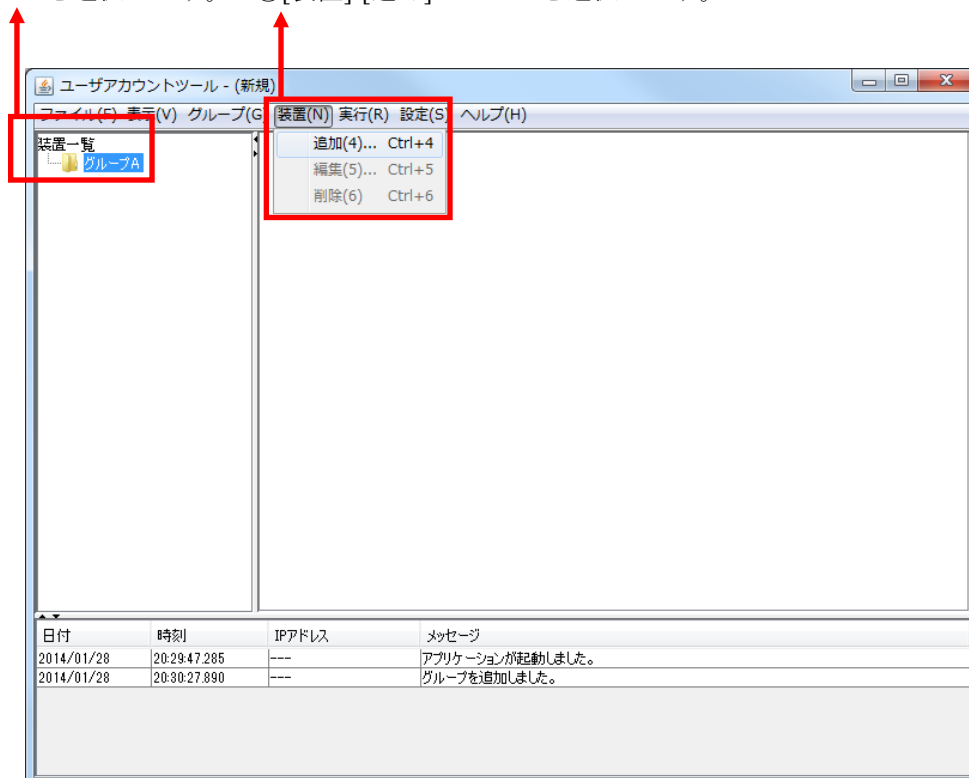
(3) 装置を登録する

グループを登録した後、グループに装置を登録します。

装置を登録するには、装置一覧ツリー上でグループを選択して、[装置]-[追加]メニューを選択し、[装置情報設定]画面を開きます。

図 3-4 装置登録（1）

- ①グループを選択します。 ②[装置]-[追加]メニューを選択します。

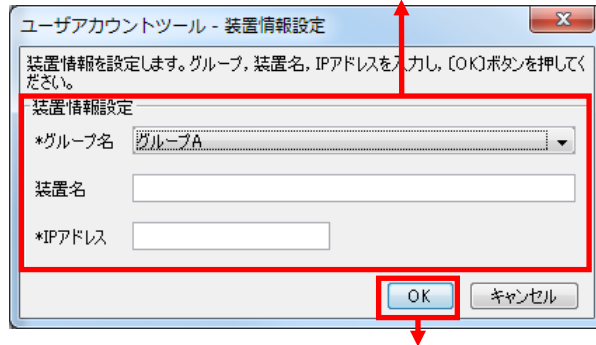


[装置情報設定]画面を開いたら、装置名（0～64文字）、IPアドレス（10進ドット記法のIPv4アドレス）を入力して、[OK]ボタンを押下します。なお、装置名は入力を省略することができます。

[注意事項]

装置名としてHTMLタグやタブ文字を使用しないでください。HTMLタグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されないことがあります。

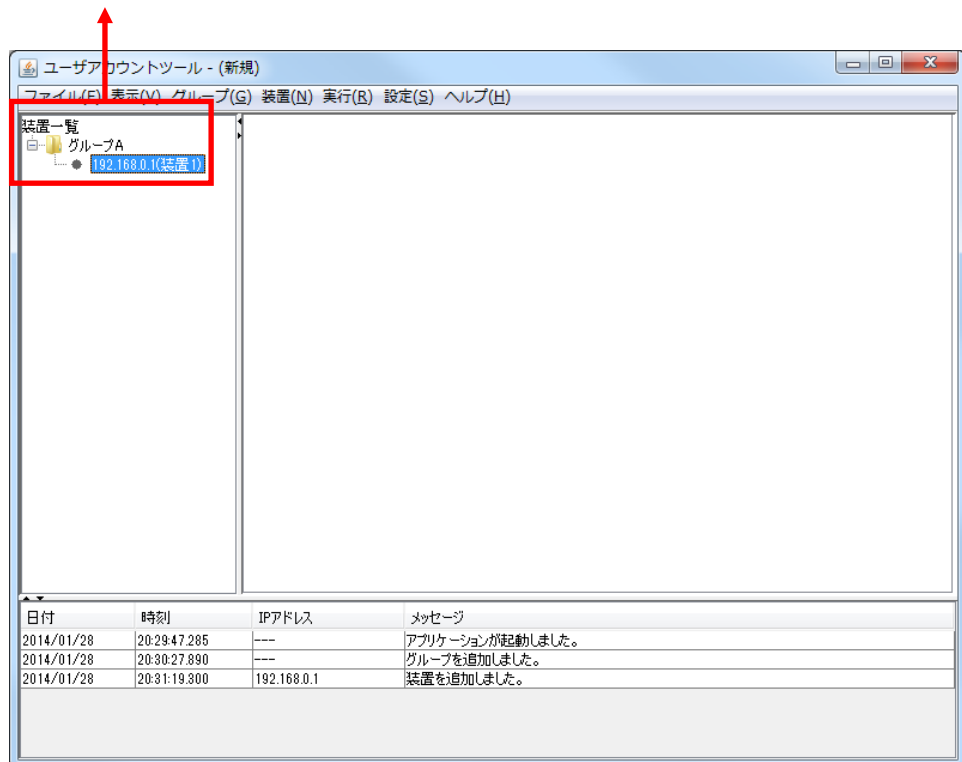
図 3-5 装置登録 (2) ③装置名, IP アドレスを入力します。
 ※装置名は入力を省略することができます。



④OK ボタンを押下します。

図 3-6 装置登録 (3)

⑤装置一覧ツリーに装置が追加されます。



(4) 装置情報を変更する／登録した装置を削除する

装置情報の変更を行うには、装置一覧ツリー上で装置を選択して、[装置]-[編集]メニューを選択し、[装置情報設定]画面を開きます。[装置情報設定]画面を開いたら、必要な情報を入力し、[OK] ボタンを押下します。

装置の削除を行うには、装置一覧ツリー上で装置を選択して、[装置]-[削除]メニューを選択します。

3.1.2 装置情報ファイルから登録する

グループや装置は、グループや装置の情報を定義した装置情報ファイルを、ユーザアカウントツールから読み込んで登録することもできます。

(1) 装置情報ファイル

装置情報ファイルは、[ファイル]-[名前を付けて保存]、または、[ファイル]-[上書き保存]メニューを実行した際に保存される、ツール上のグループ、および、装置の情報を記録したファイルです。ツールから保存した装置情報ファイルは、[ファイル]-[開く]メニューから、再びツール上に読み込むことができます。

装置情報ファイルのフォーマットは CSV 形式のテキストファイルであるため、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成することもできます。装置情報ファイルの例と、装置情報ファイルをテーブル形式で表示したイメージを次図および次表に示します。

[注意事項]

装置情報ファイルをスプレッドシートアプリケーションで編集する場合は、各フィールドの値（例：グループ名や装置名）に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用しないでください。

グループ名や装置名等に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用すると、ツールからファイルを読み込んだ際に、グループ名や装置名等が正しく表示されない、または、ファイルの読み込みに失敗する場合があります。

グループ名に以下の文字を使用しないでください。

¥/:*?"<>|

各フィールドの値に HTML タグやタブ文字を使用しないでください。

HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されないことがあります。

図 3-7 装置情報ファイルの例

グループ名,IP アドレス,装置名,アカウント更新時刻
グループ A,192.168.0.1,装置 1,
グループ A,192.168.0.2,装置 2,
グループ A,192.168.0.3,,
グループ A,192.168.0.4,装置 4,
グループ B,192.168.1.1,装置 1,
グループ B,192.168.1.2,装置 2,
グループ C,,,
グループ D,192.168.3.1,装置 1,

表 3-1 装置情報ファイルをテーブル形式で表示したイメージ

	A	B	C	D
1	グループ名	IP アドレス	装置名	アカウント更新時刻
2	グループ A	192.168.0.1	装置 1	
3	グループ A	192.168.0.2	装置 2	
4	グループ A	192.168.0.3		
5	グループ A	192.168.0.4	装置 4	
6	グループ B	192.168.1.1	装置 1	
7	グループ B	192.168.1.2	装置 2	
8	グループ C			
9	グループ D	192.168.3.1	装置 1	

- ・装置情報ファイル作成する場合、1行目にはヘッダー情報を記述し、2行目以降に各装置の装置情報を記述します。※1※3
- ・A列：グループ名は1～32文字で設定可能です。
- ・B列：IPアドレスは10進ドット記法のIPv4アドレスで設定可能です。
- ・C列：装置名は0～64文字で設定するか、省略できます。
- ・D列：アカウント更新時刻は以下の形式で指定するか、省略できます。

YYYY/MM/DD hh:mm

YYYY：年(2011)

MM：月(01～12)

DD:日(01～31)

hh:時(00～23)

mm:分(00～59)

- ・4行目のC列には、装置名およびアカウント更新時刻の指定がありませんが、このように、装置名およびアカウント更新時刻は指定を省略することができます（グループ名とIPアドレスの項目は指定が必須であり、省略することはできません）。
- ・また、8行目はA列のグループ名のみ指定されていますが、このような装置情報は、「装置情報のエントリがないグループ」という特別な意味を持ちます。※2
- ・各列の指定値が不正(範囲外)な場合、装置情報ファイル読み込み時にエラーとなります。

※1 1行目（ヘッダー情報）は省略できませんが、ヘッダー情報の記述内容は任意です。（上図の例と同様の記述にする必要はありません。）

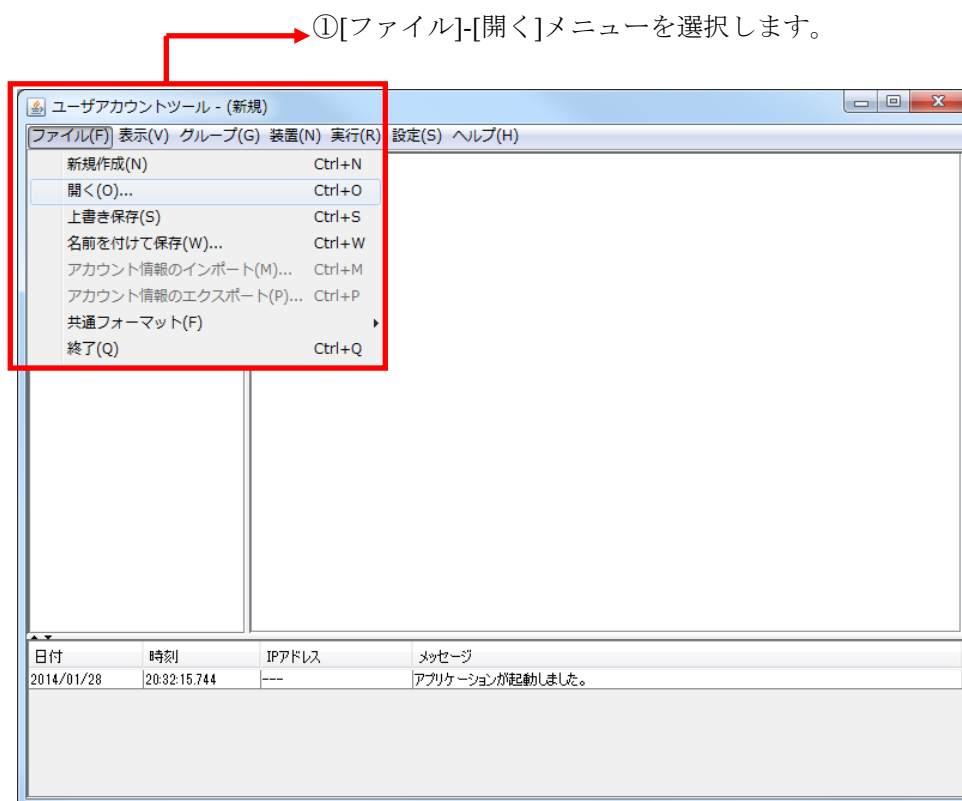
※2 グループ名のみ指定した装置情報を、同一のグループ名で複数件登録した場合、2件目以降は無視されます。

※3 装置情報ファイルには空行（改行だけの行）を記述できません。記述した場合にはエラーになります。

(2) 作成した装置情報ファイルを読み込む

作成したファイルをツールに読み込むには、[ファイル]-[開く]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-8 装置情報ファイルの読み込み（1）



ファイル選択画面が開いたら、作成した装置情報ファイルを選択し、[開く]ボタンを押下します。

図 3-9 装置情報ファイルの読み込み（2）

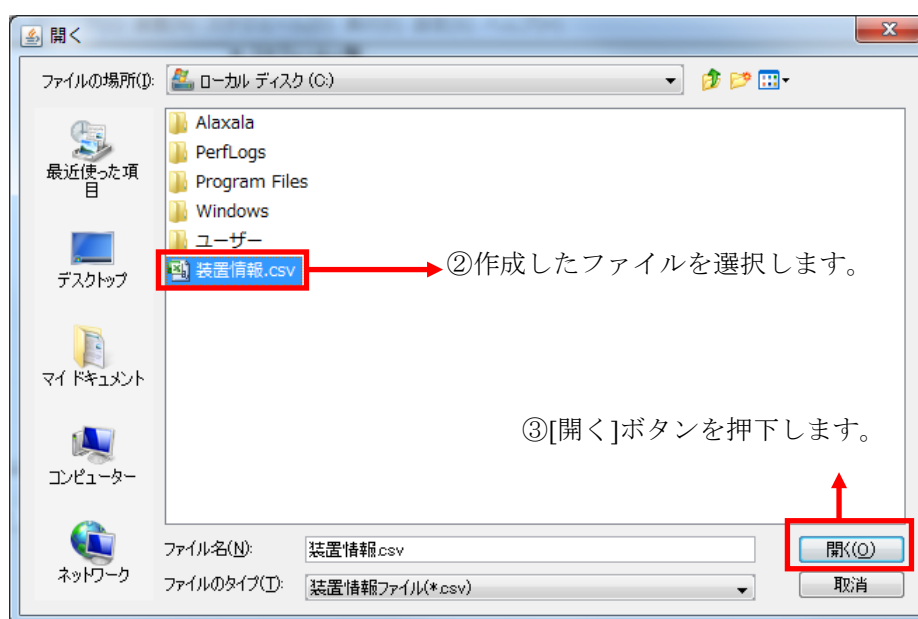
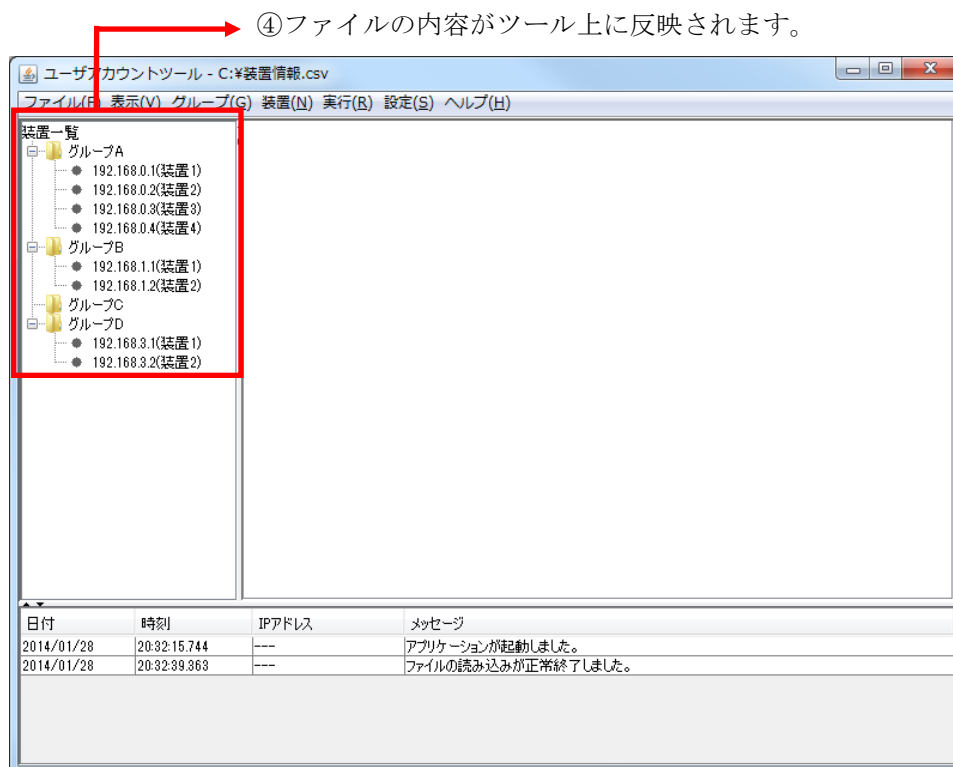


図 3-10 装置情報ファイルの読み込み（3）



3.1.3 装置情報のインポート・エクスポート

本ツールに登録したグループや装置の情報は、共通フォーマットファイルを介して、AX-Networker's-Utility の他ツールと相互にエクスポート・インポートすることができます。つまり、本ツールに登録したグループや装置の情報を AX-Networker's-Utility の他ツール用にエクスポート、および AX-Networker's-Utility の他ツールへ登録したグループや装置の情報を本ツールへインポートできます。

(1) 共通フォーマットファイル

共通フォーマットファイルは、本ツールへ登録した装置情報を AX-Networker's-Utility の他ツール用にエクスポート、または AX-Networker's-Utility の他ツールへ登録した装置情報を本ツールへインポートするためのファイルです。[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート...]メニューを選択することで、共通フォーマットファイル形式で装置情報をエクスポートし、[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート...]メニューを選択することで、共通フォーマットファイル形式で装置情報をインポートすることができます。

共通フォーマットファイルのフォーマットは CSV 形式のテキストファイルです。従って、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成することもできますが、ツールの共通フォーマットファイルのエクスポートで作成することをおすすめします。エクスポート後、必要に応じて、エクスポートした共通フォーマットファイルをテキストエディタやスプレッドシートアプリケーションで修正することが可能です。

AX-Networker's-Utility の他ツールでエクスポートした共通フォーマットファイルから本ツールへのインポートを行う際、共通フォーマットファイルに本ツールでの必須指定項目が指定されていない場合には、その指定されていない項目をテキストエディタやスプレッドシートアプリケーションで追加してからインポートを行ってください。

共通フォーマットファイルの項目と本ツールでの指定値を次表に示します。

表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールでの指定値

項目	指定値
グループ名	グループ名を 1～32 文字で指定します。 必須指定項目です。
チェックボックスのチェック状態	本ツールでは利用しません。
IP アドレス	IP アドレスを 10 進ドット記法の IPv4 アドレスで指定します。 必須指定項目です。
装置名	装置名を 0～64 文字で指定します。 任意指定項目です。
場所	本ツールでは利用しません。
ソフトウェア更新機能アカウント	本ツールでは利用しません。
ソフトウェア更新機能パスワード	本ツールでは利用しません。
Web 認証画面入れ替え機能アカウント	本ツールでは利用しません。
Web 認証画面入れ替え機能パスワード	本ツールでは利用しません。
メール通知制限	本ツールでは利用しません。
装置モデル	本ツールでは利用しません。
省電力モード	本ツールでは利用しません。

電力制御設定	本ツールでは利用しません。
NIF ボード情報	本ツールでは利用しません。
NIF ボード LED 動作	本ツールでは利用しません。
スイッチングユニット設定	本ツールでは利用しません。
スイッチングユニットの枚数設定	本ツールでは利用しません。
待機系スイッチングユニットの給電設定	本ツールでは利用しません。
スイッチ種別	本ツールでは利用しません。
アカウント更新時刻	アカウント更新時刻を以下の形式で指定するか、省略できます。 YYYY/MM/DD hh:mm YYYY…年（例：2011） MM…月（例：08） DD…日（例：09） hh…時（例：03） mm…分（例：21） 任意指定項目です。
Web 認証証明書有効期限	本ツールでは利用しません。
Web 認証証明書確認時刻	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した証明書のファイルパス	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した秘密鍵のファイルパス	本ツールでは利用しません。
前回アップロード時に選択した中間 CA 証明書のファイルパス	本ツールでは利用しません。

[注意事項]

- ・表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールの指定値で、[指定値]列が「本ツールでは利用しません。」になっている項目も、CSV フォーマットとしての列は必要ですので省略しないでください。
- ・AX-Networker's-Utility の他ツールでエクスポートした共通フォーマットファイルをインポートする際、表 3-2 共通フォーマットファイルの項目と本ツールの指定値で、[指定値]列に「必須指定項目です。」がある項目は、インポートの前にエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用し、インポート対象の共通フ

フォーマットファイルへその項目の指定値を追加してください。

- 共通フォーマットファイルをスプレッドシートアプリケーションで編集する場合は、各フィールドの値（例：グループ名や装置名）に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用しないでください。

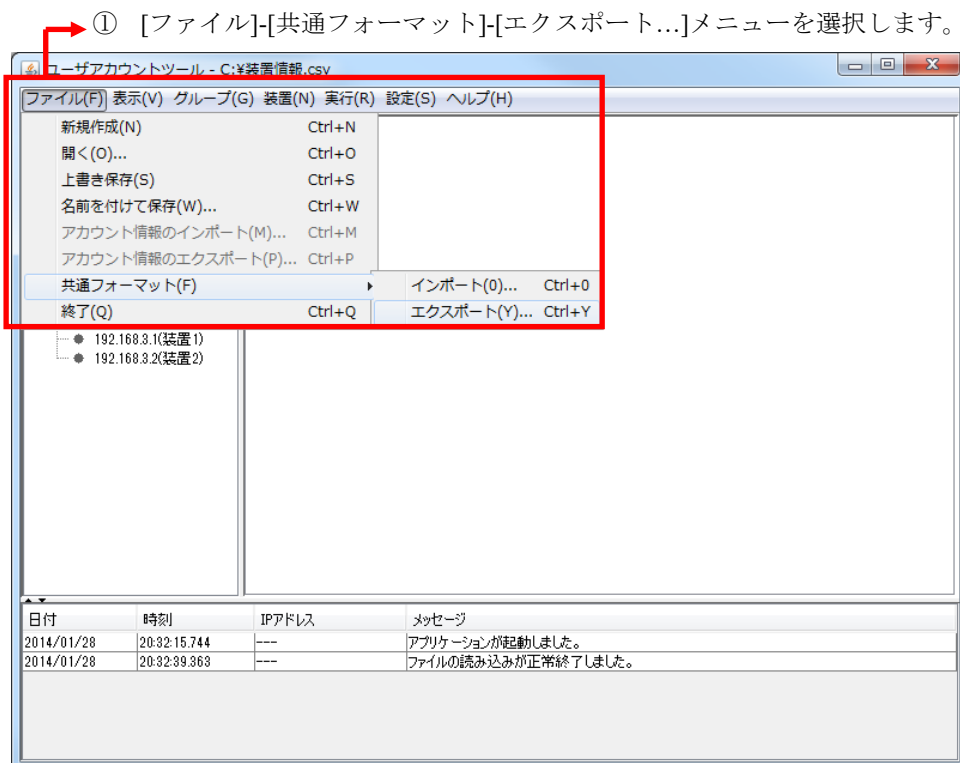
グループ名や装置名等に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用すると、ツールから共通フォーマットファイルをインポートした際に、グループ名や装置名等が正しく表示されない、または、共通フォーマットファイルのインポートに失敗する場合があります。

- 各フィールドの値として HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文字を使用すると、ツール上で正しく表示されない場合があります。

(2) 装置情報を共通フォーマットファイルへエクスポートする

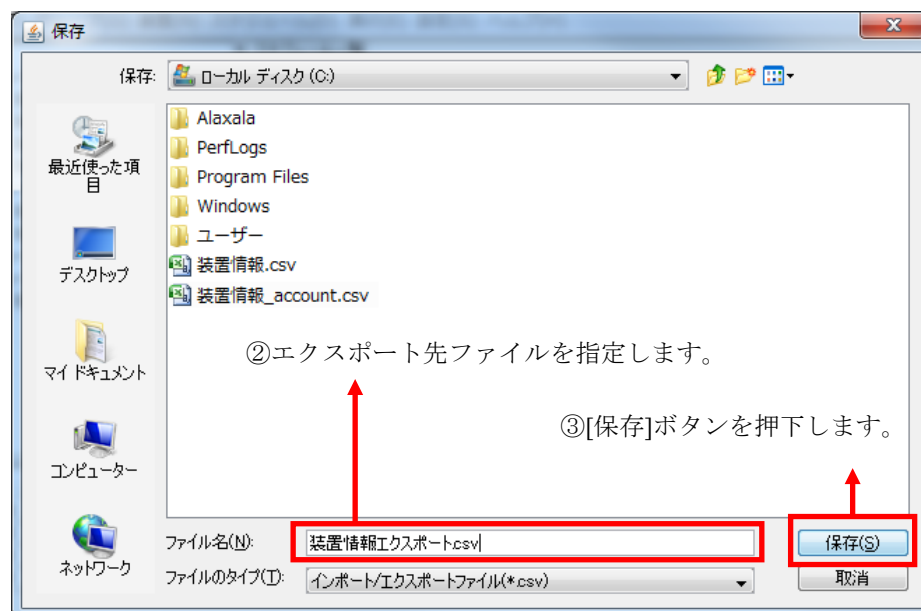
ツールへ登録した装置情報を共通フォーマットファイルへエクスポートするには、[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート...]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-11 装置情報のエクスポート（1）



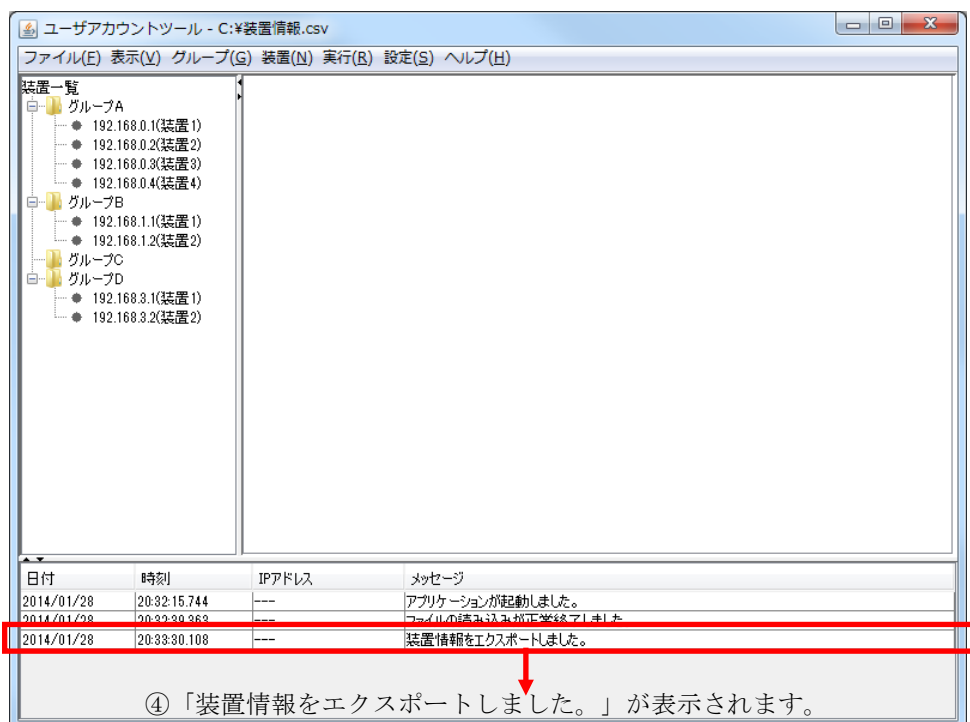
ファイル選択画面が表示されたら、エクスポート先の共通フォーマットファイルの名前を指定し、〔保存〕ボタンを押します。

図 3-12 装置情報のエクスポート（2）



装置情報のエクスポートが成功すると、エクスポート成功のメッセージが表示されます。

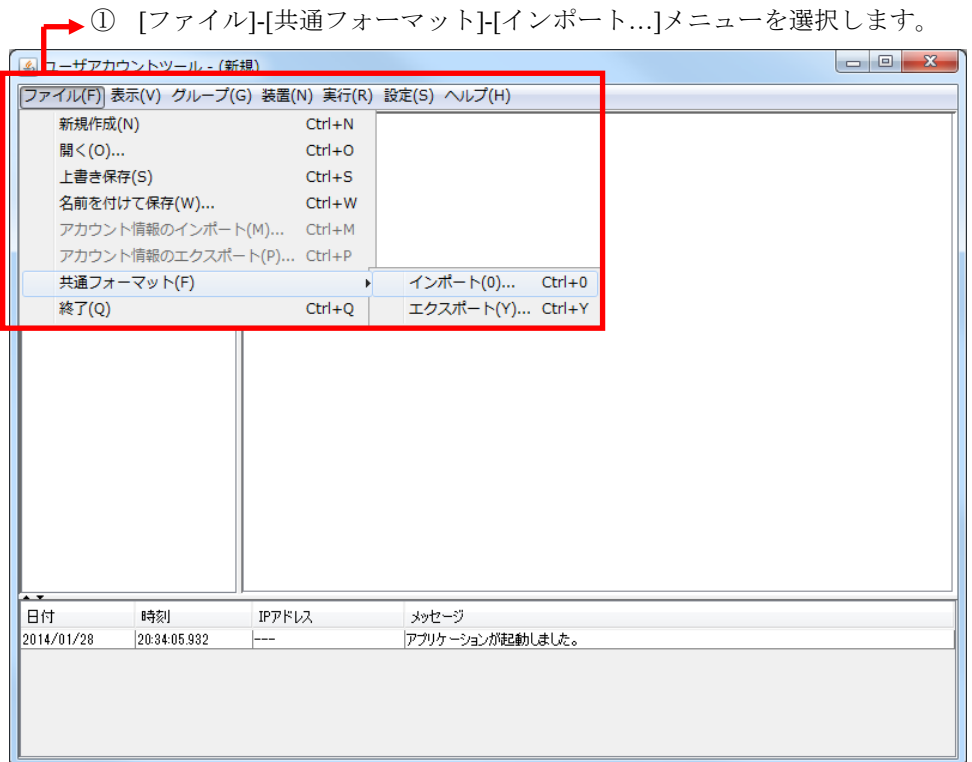
図 3-13 装置情報のエクスポート（3）



(3) 装置情報を共通フォーマットファイルからインポートする

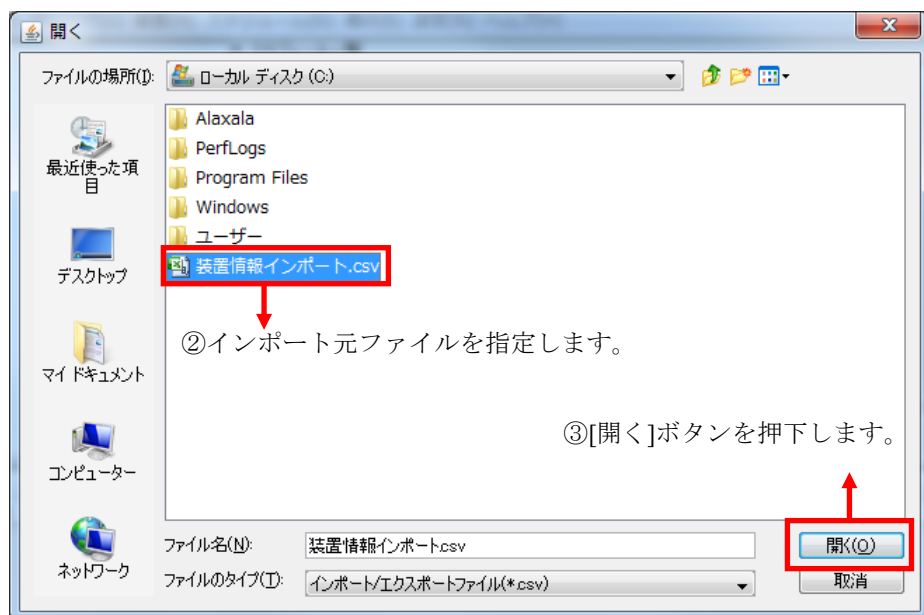
共通フォーマットファイルから装置情報をインポートするには、[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート...]メニューを選択し、ファイル選択画面を開きます。

図 3-14 装置情報のインポート（1）



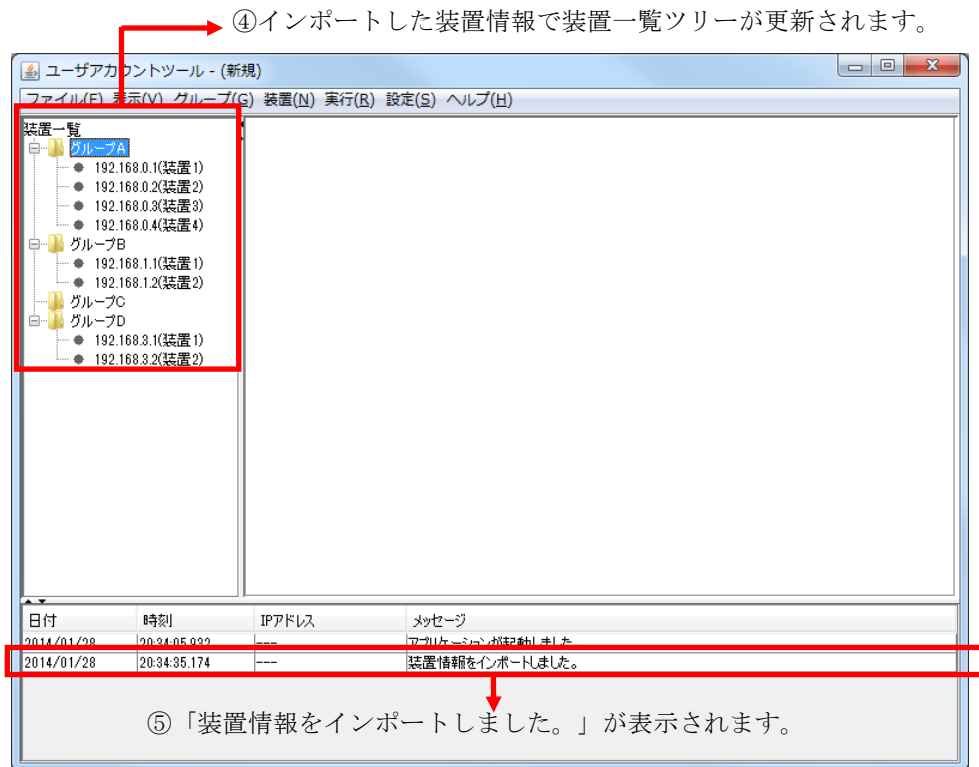
ファイル選択画面が表示されたら、インポート元の共通フォーマットファイルの名前を指定し、〔開く〕ボタンを押します。

図 3-15 装置情報のインポート（2）



装置情報のインポートが成功すると、装置一覧ツリーが更新され、インポート成功のメッセージが表示されます。

図 3-16 装置情報のインポート（3）



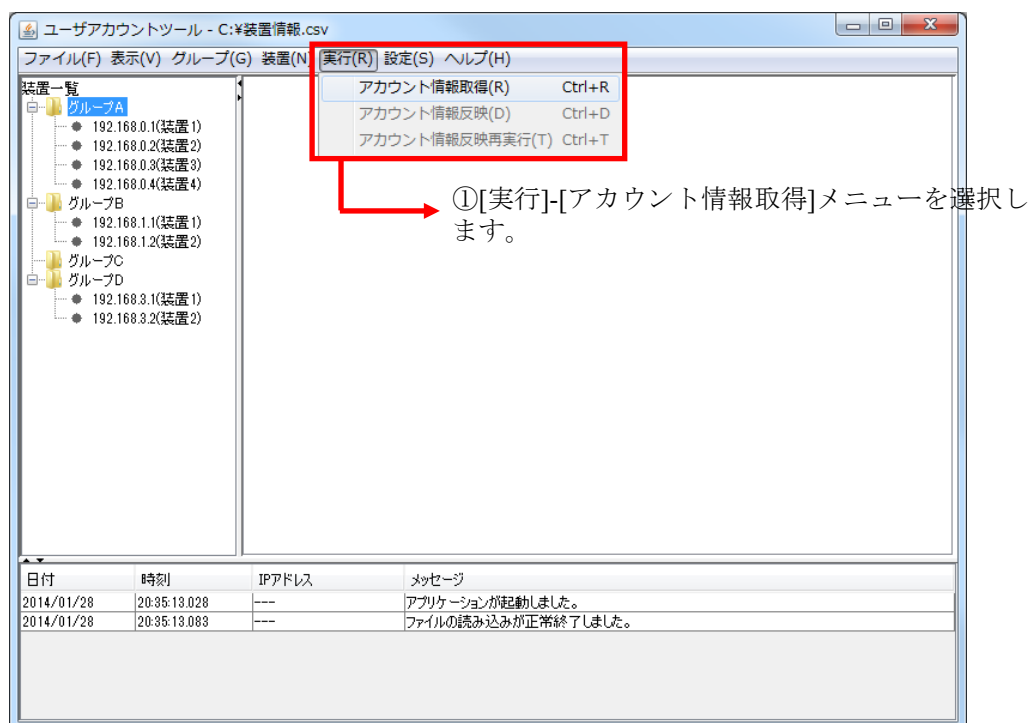
3.2 装置のアカウント情報を収集して表示する

この節では、装置からアカウント情報を収集し、ユーザアカウントツールへ表示する方法について説明します。

それでは、最新のアカウント情報を収集する手順を説明します。

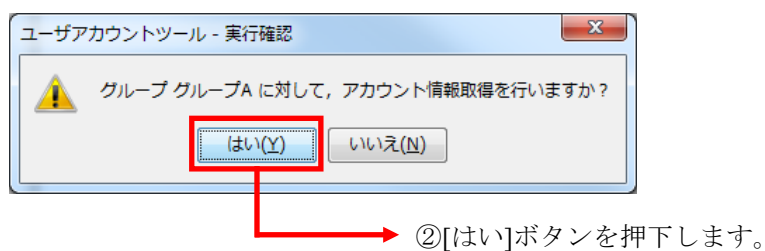
まず、装置一覧ツリーでグループを選択し、メインメニューから[実行]-[アカウント情報取得]を選択してアカウント情報を収集します。

図 3-17 アカウント情報収集（1）



アカウント情報収集の際に [実行確認] 画面が表示されるので、[OK] ボタンを押下します。

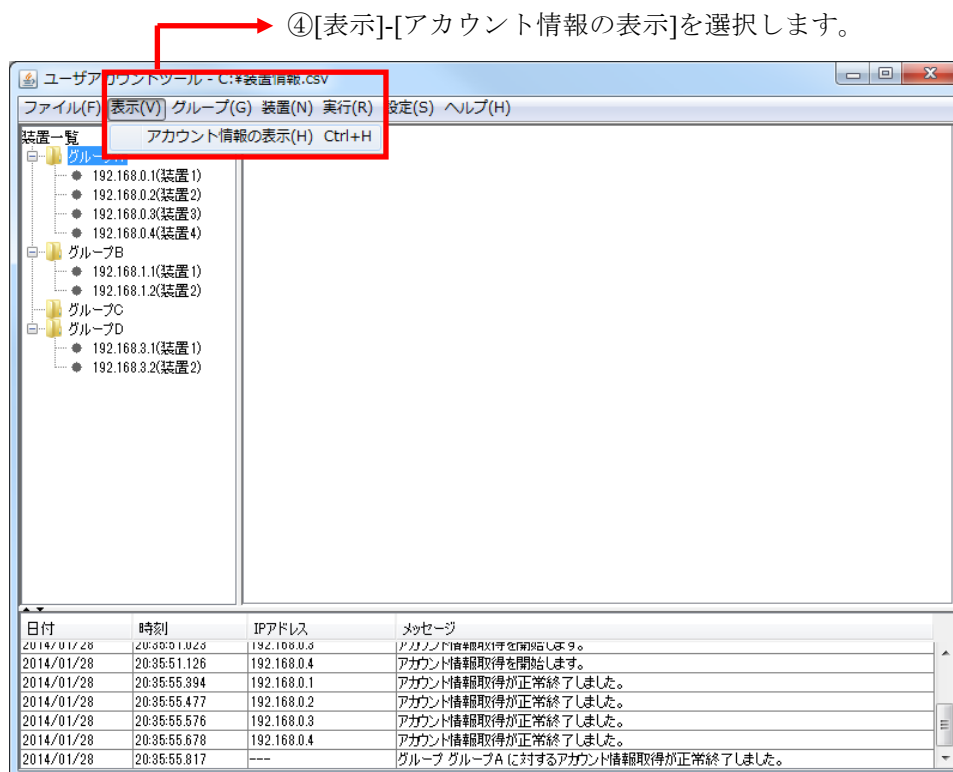
図 3-18 アカウント情報収集（2）



その結果、アカウント情報が収集されます。

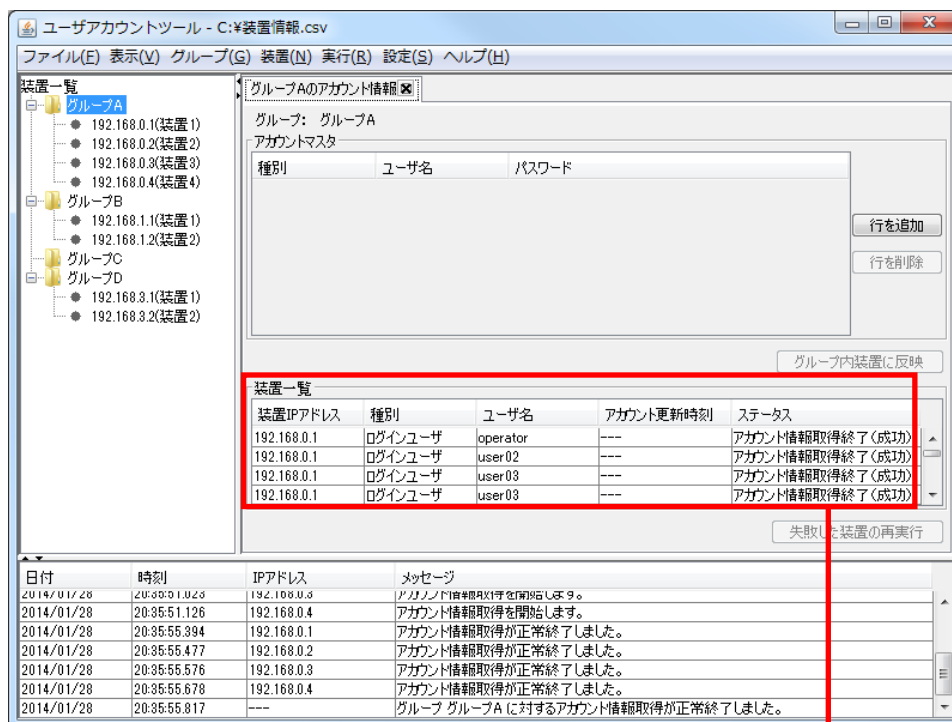
収集したアカウント情報の内容を表示するには、装置一覧ツリーでグループを選択した状態で、メインメニューから[表示]-[アカウント情報の表示]を選択します。

図 3-19 アカウント情報収集（3）



その結果、アカウント情報一覧上でタブ[グループ名のアカウント情報]が追加または更新され、収集したアカウント情報の内容が装置一覧テーブルに表示されます。

図 3-20 アカウント情報収集（4）



⑤収集したアカウント情報が表示されます。

装置一覧テーブルでは、以下の情報が一覧表示されます。

表 3-3 装置のアカウント情報

項番	情報	説明
1	装置 IP アドレス	装置の IP アドレス（10 進ドット記法の IPv4 アドレス）です。 初期値は空欄です。
2	種別	アカウント情報の種別です。以下の 2 つのいずれかを表示します： ・ ログインユーザ ・ enable パスワード 初期値は空欄です。
3	ユーザ名	種別がログインユーザの場合、ユーザ名を 1～16 文字の半角英数字（ただし、1 文字目は英字、2 文字目以降

		<p>は英数字) で表示します。</p> <p>種別が「enable パスワード」の場合, "---"が表示されま す。</p> <p>初期値は空欄です。</p>
4	アカウント更新時刻	<p>ユーザアカウント情報反映操作で, ある 1 装置のユー ザアカウント情報のすべてが反映成功の場合, アカウ ント更新時刻を以下の書式で表示します。</p> <p>YYYY/MM/DD hh:mm</p> <p>YYYY…年 (例: 2011)</p> <p>MM…月 (例: 08)</p> <p>DD…日 (例: 09)</p> <p>hh…時 (例: 03)</p> <p>mm…分 (例: 21)</p> <p>アカウントが一度も更新成功していない場合には, "---" を表示します。</p> <p>アカウント更新時刻が更新された場合には, 装置情報 ファイルに格納されているアカウント更新時刻を更新 するため装置情報ファイルを保存してください。</p>
5	ステータス	<p>装置に対するアカウント情報操作を行っている際, 以 下の操作状態を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • "アカウント情報取得中" • "アカウント情報取得終了 (失敗) " • "アカウント情報取得終了 (成功) " • "アカウント情報反映中" • "アカウント情報反映終了 (失敗) " • "アカウント情報反映終了 (成功) " <p>初期値は空欄です。</p>

3.3 アカウントマスタの作成

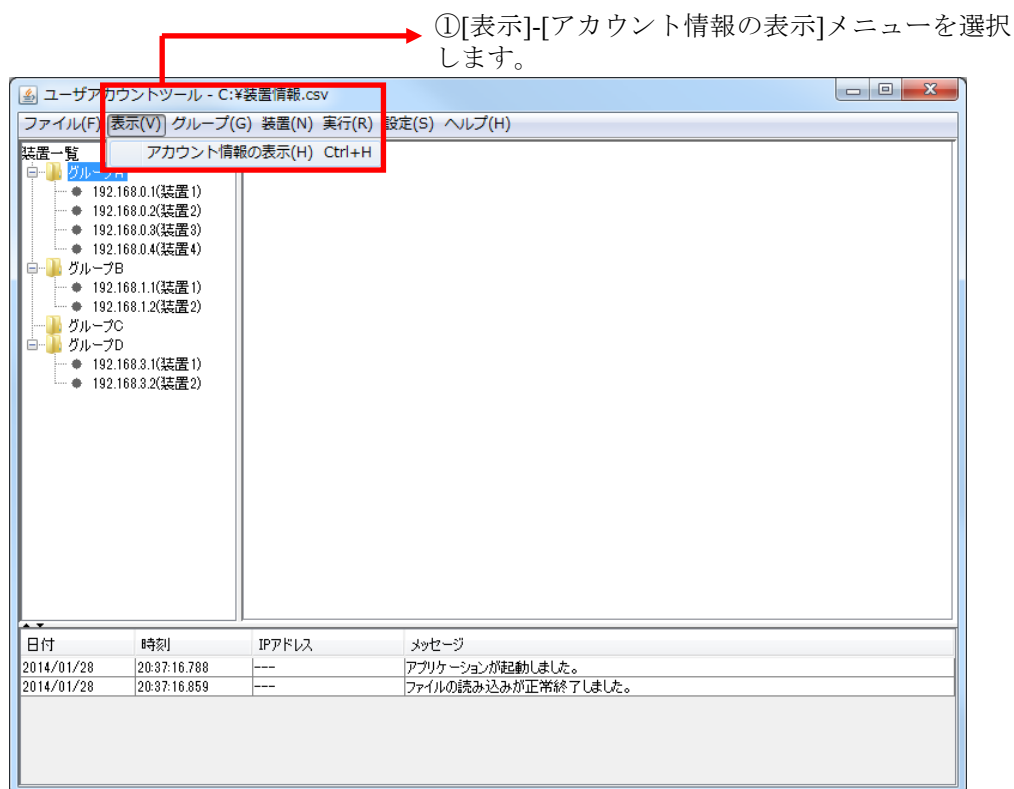
この節では、装置へ設定するアカウント情報であるアカウントマスタの作成方法を説明します。

3.3.1 アカウントマスタの入力

アカウントマスタを作成するには、まず、アカウント情報一覧にアカウントマスタを入力したいグループのタブを開き、アカウントマスタテーブルを表示します。

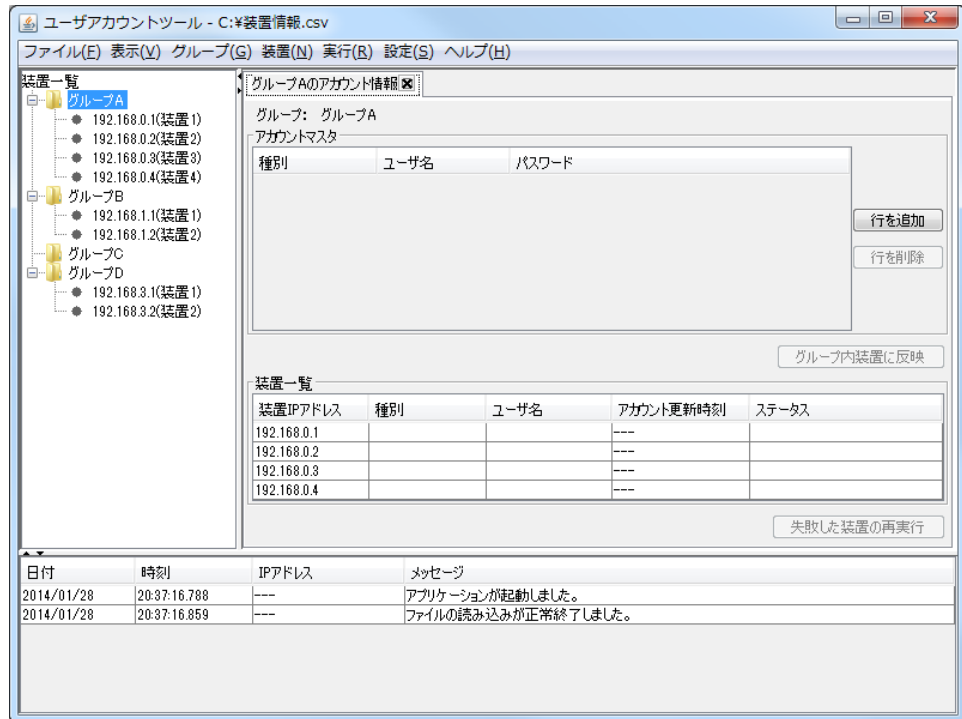
そのためには、装置一覧ツリーでグループを選択し、メインメニューから[表示]-[アカウント情報の表示]メニューを選択します。

図 3-21 アカウントマスタ入力（1）



アカウント情報一覧にアカウントマスタ入力対象グループのタブが開き、アカウントマスタテーブルが表示されました。

図 3-22 アカウントマスタ入力 (2)

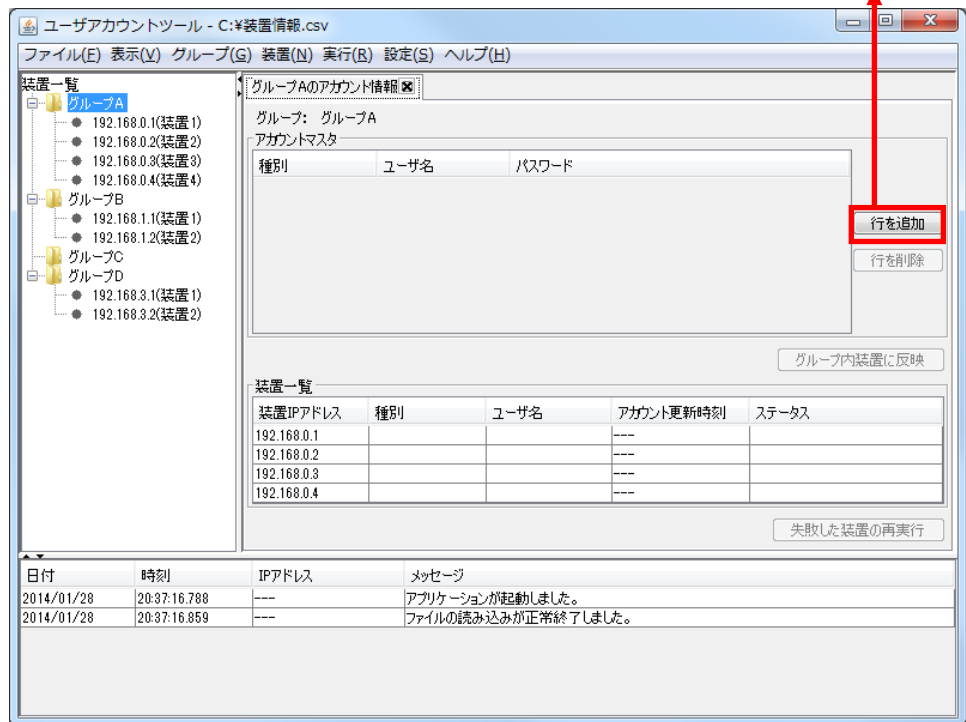


アカウントマスタテーブルでは、最大ログインユーザを 9 個、enable のパスワードを 1 個入力可能です。アカウントマスタへのアカウント情報の追加、アカウントマスタ内のアカウント情報の編集、アカウントマスタ内のアカウント情報の削除について、操作を見ていきましょう。

(1) アカウントマスタへのアカウント情報の追加

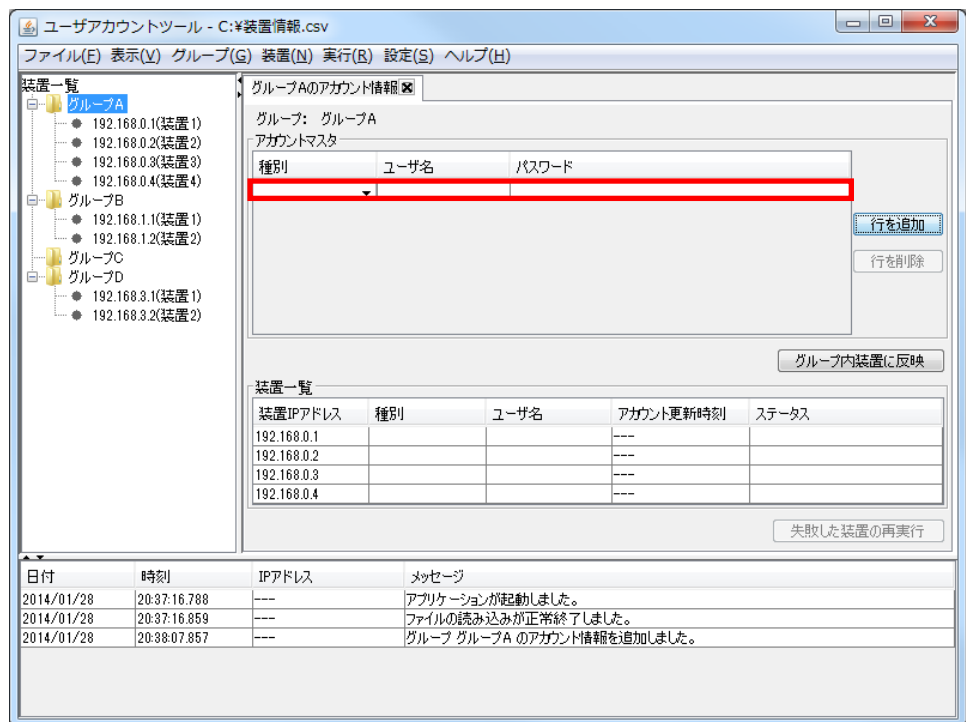
アカウントマスタへアカウント情報を追加するには、まず、アカウントマスタテーブルの右にある「行を追加」ボタンを押下し、追加するアカウント情報を格納する行を新規に割り当てます。

図 3-23 アカウントマスタ入力 (3) ② [行を追加] ボタンを押下します。



追加するアカウント情報を格納する行を新規に割り当てられました。

図 3-24 アカウントマスタ入力 (4)



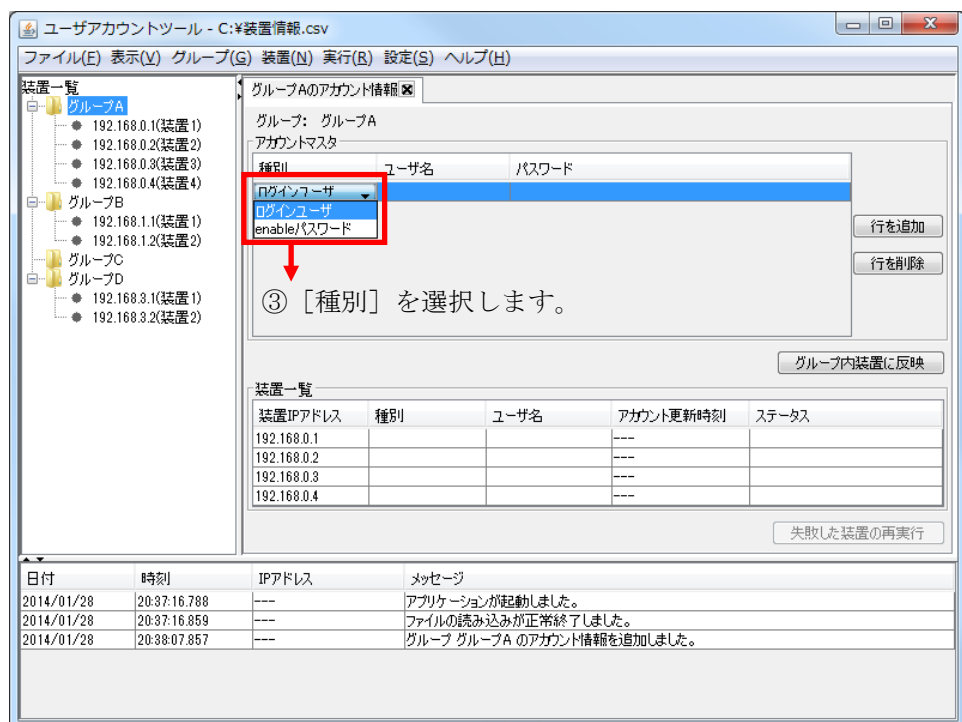
行を新規に割り当てた状態では、以下のようになっています：

- ・ [種別] …未選択のコンボボックスが表示されている
- ・ [ユーザ名] …値が入っていない
- ・ [パスワード] …値が入っていない

[種別]， [ユーザ名]， [パスワード] を以下の順序で入力します。

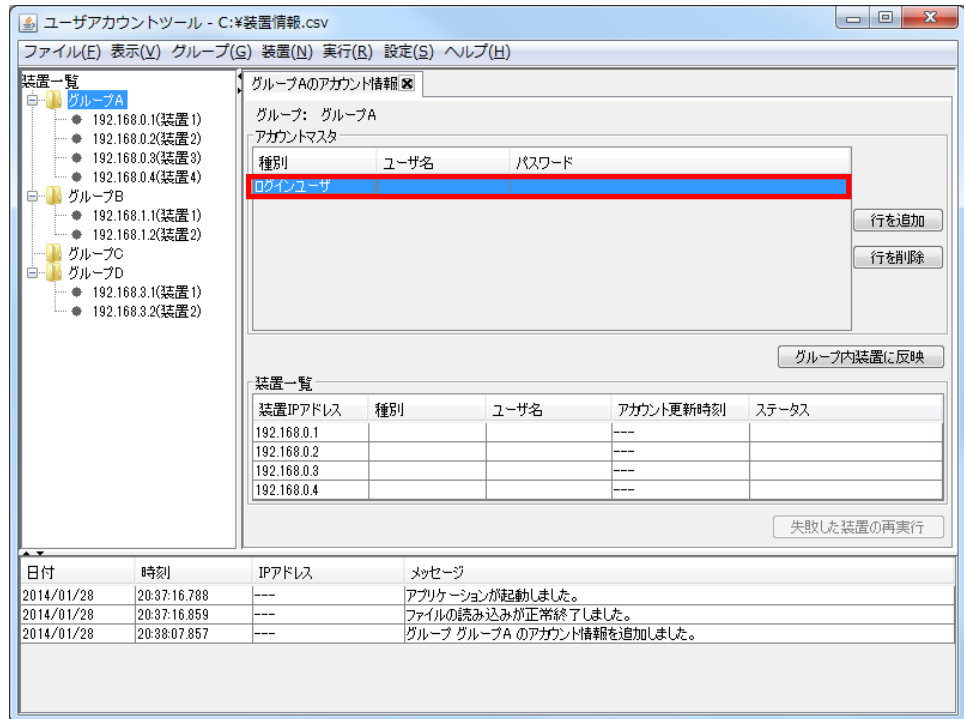
まず， [種別] のコンボボックスを選択し，作成するアカウント情報がログインユーザなのか， enable のパスワードなのかを決めます。

図 3-25 アカウントマスタ入力（5）



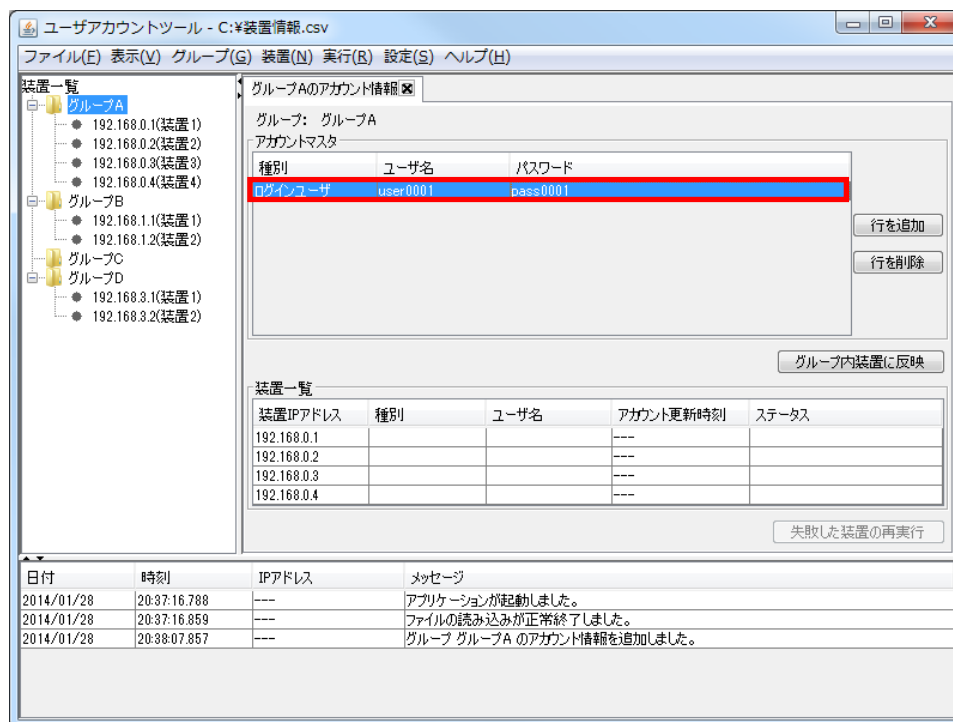
[種別] コンボボックスを選択し確定させると，種別は再度編集することは出来ませんのでご注意ください。 [種別] コンボボックスを確定させると以下のように編集不可のテキストとなります。

図 3-26 アカウントマスタ入力 (6)



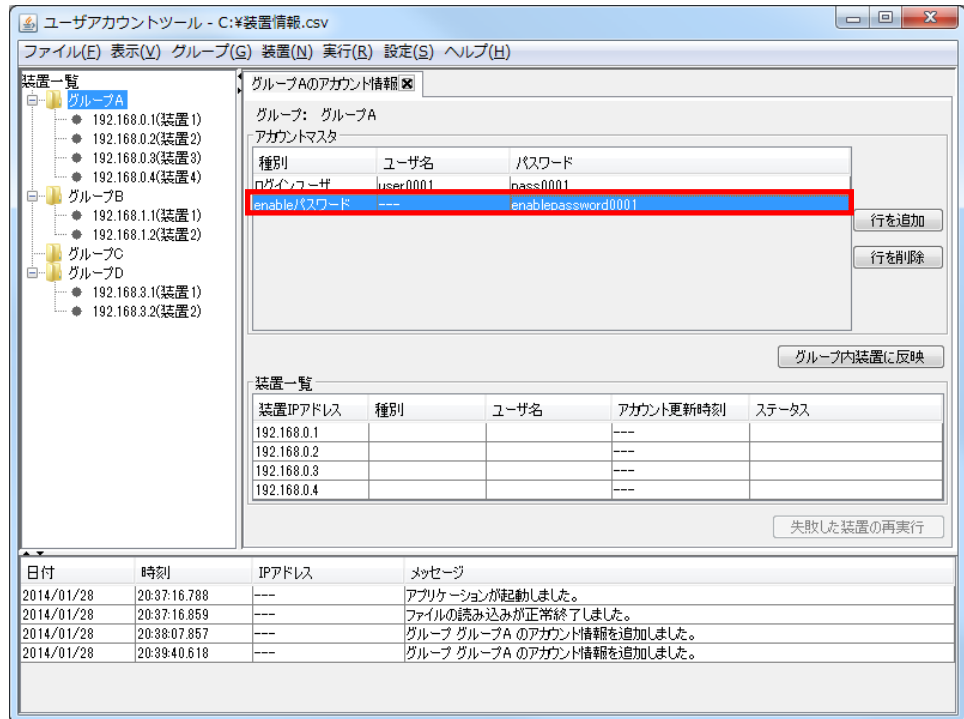
[種別] としてログインユーザを選択した場合、[ユーザ名] および [パスワード] への入力が必要です。[ユーザ名] および [パスワード] をマウスで左クリックし、編集可能にして、それぞれユーザ名およびパスワードを入力します。これで、アカウントマスタテーブルへのアカウント情報入力は完了です。

図 3-27 アカウントマスタ入力（7）



[種別] 列として「enable パスワード」を選択した場合，[ユーザ名] は自動的に"---"になります。あとは，[パスワード] を入力確定させれば，アカウントマスタテーブルへのアカウント情報入力は完了です。

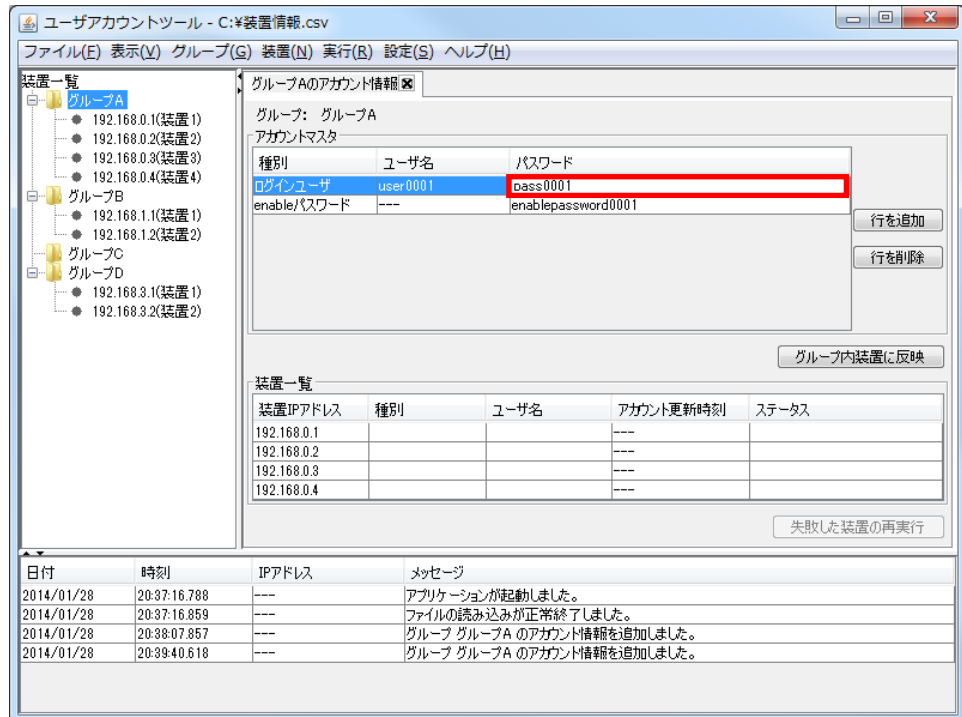
図 3-28 アカウントマスタ入力 (8)



(2) アカウントマスタ内のアカウント情報の編集

アカウントマスタ内のアカウント情報を編集するには、編集したいアカウント情報のある行の [ユーザ名] および [パスワード] をマウスで左クリックし、編集状態にします。

図 3-29 アカウントマスタ入力 (9)

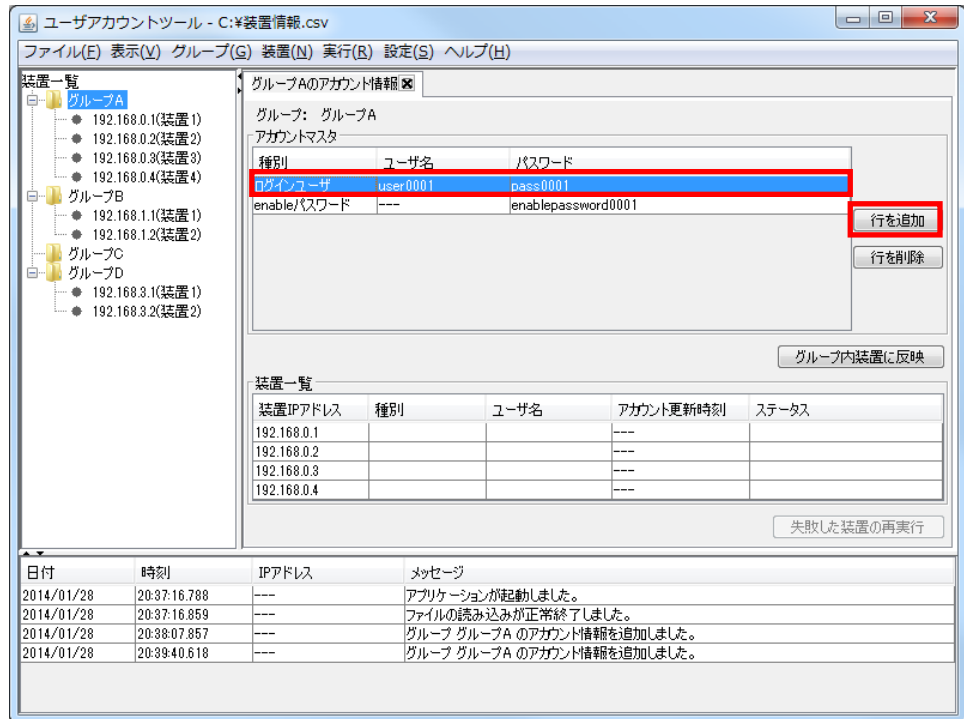


[種別] が「ログインユーザ」の場合には [ユーザ名] および [パスワード] の両方を修正できます。 [種別] が「enable パスワード」の場合には [パスワード] のみを修正できます。

(3) アカウントマスタ内のアカウント情報の削除

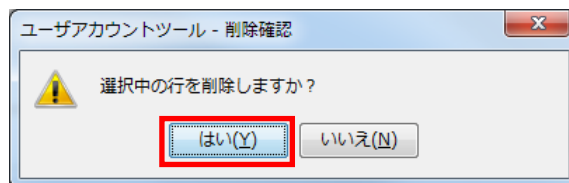
アカウントマスタテーブル内で削除したいアカウント情報を選択し、 [行を削除] ボタンを押下します。

図 3-30 アカウントマスタ入力 (1 0)



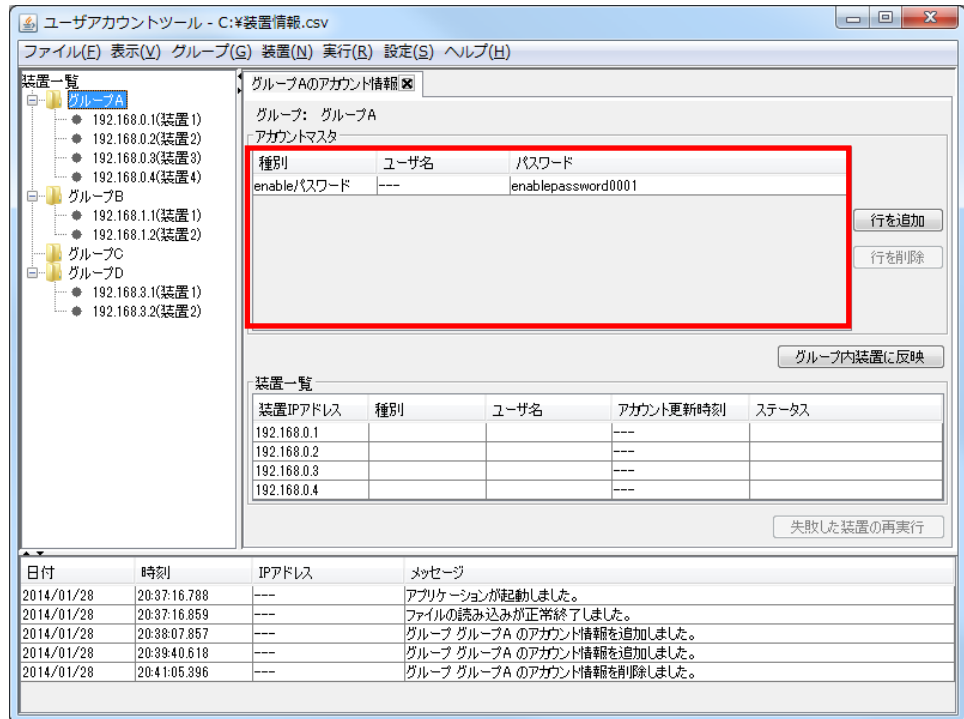
[削除確認] 画面が表示されるので, [はい] ボタンを押下します。

図 3-31 アカウントマスタ入力 (1 1)



選択行がアカウントマスタテーブルから削除されます。

図 3-32 アカウントマスタ入力 (12)



3.3.2 アカウントマスタのインポート

ここでは、スプレッドシートアプリケーションやテキストエディタで作成したアカウントマスタを、選択した1グループ用にインポートする方法を説明します。以下、具体的な手順です。

(1) アカウント情報インポートファイルを作成する

アカウント情報インポートファイルのフォーマットは CSV 形式のテキストファイルになっており、テキストエディタやスプレッドシートアプリケーションを利用して作成することができます。アカウント情報インポートファイルの例と、アカウント情報インポートファイルを一覧形式で表示したイメージ、アカウント情報インポートファイルへ指定する情報を次に示します。

図 3-33 アカウント情報インポートファイルの例

```
種別,ユーザ名,パスワード  
ログインユーザ,adminuser1,adminpass1  
enable パスワード,---,enablepass1  
ログインユーザ,staff0001,stfpwd0001  
ログインユーザ,staff0002,stfpwd0002
```

表 3-4 アカウント情報インポートファイルを一覧形式で表示したイメージ

	種別	ユーザ名	パスワード
1	ログインユーザ	adminuser1	adminpass1
2	enable パスワード	---	enablepass1
3	ログインユーザ	staff0001	stfpwd0001
4	ログインユーザ	staff0002	stfpwd0002

表 3-5 アカウント情報インポートファイルへ指定する情報

項番	情報	説明
1	種別	<p>アカウントマスタで定義するアカウント情報の種別です。以下の2つのいずれかを指定します：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ログインユーザ ・enable パスワード <p>1つのアカウントマスタには、最大でログインユーザが9個、enable のパスワードが1個、合計で10個のアカウント情報を定義できます。</p>
2	ユーザ名	<p>種別がログインユーザの場合、ユーザ名を1～16文字の半角英数字（ただし、1文字目は英字、2文字目以降は英数字）で指定します。1つのアカウント情報インポートファイル内で、同じユーザ名を持つアカウント情報は指定できません。</p> <p>種別が「enable パスワード」の場合、"---"が表示され指定できません。</p>
3	パスワード	<p>種別がログインユーザの場合、ユーザ名に対するパスワードを指定します。また、種別が「enable パスワード」の場合、enable のパスワードを指定します。enable のパスワードは、アカウントマスタ内で最大1個まで定義できます。</p> <p>1～128文字の半角英数字・半角記号(ASCIIコードで0x20～0x7eの文字)で指定します。</p>

[注意事項]

アカウント情報インポートファイルをスプレッドシートアプリケーションで編集する場合は、上表での指定値に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用しないでください。

指定値に「"」（ダブルクォート）や「,」（カンマ）を使用すると、ツールからファイルを読み込んだ際に、値が正しく表示されない、または、ファイルの読み込みに失敗する場合があります。

指定値に HTML タグやタブ文字を使用しないでください。HTML タグやタブ文

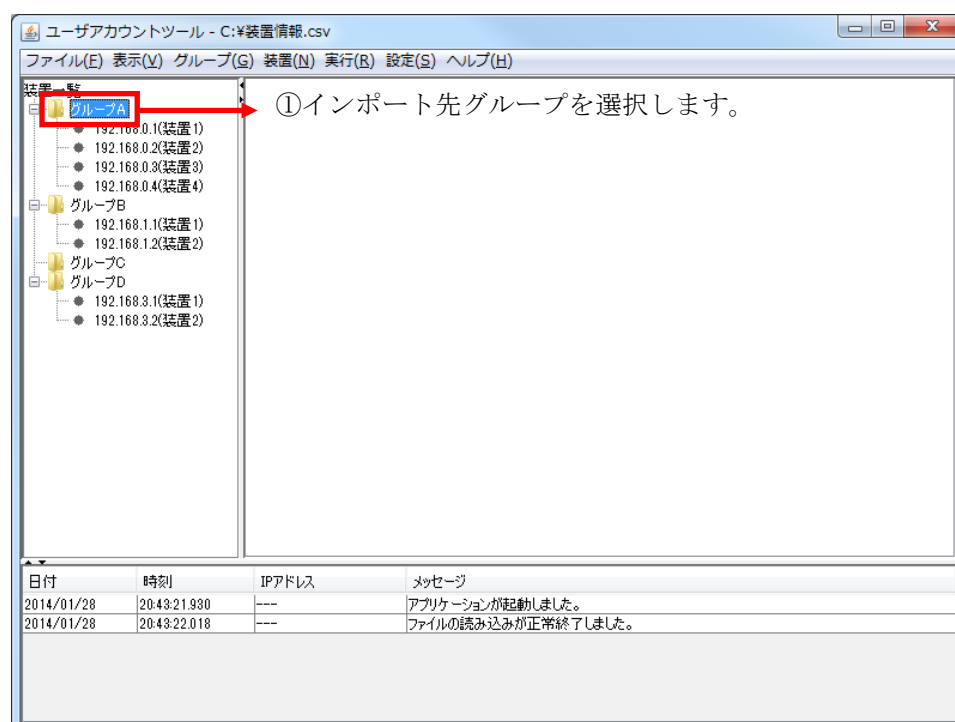
字を使用すると、ツール上で正しく表示されないことがあります。

各列の指定値が不正(範囲外)な場合、アカウント情報インポートファイルのインポート時にエラーとなります。

(2) アカウントマスタのインポート先であるグループを選択する

装置一覧ツリー上で、インポート先であるグループを選択します。

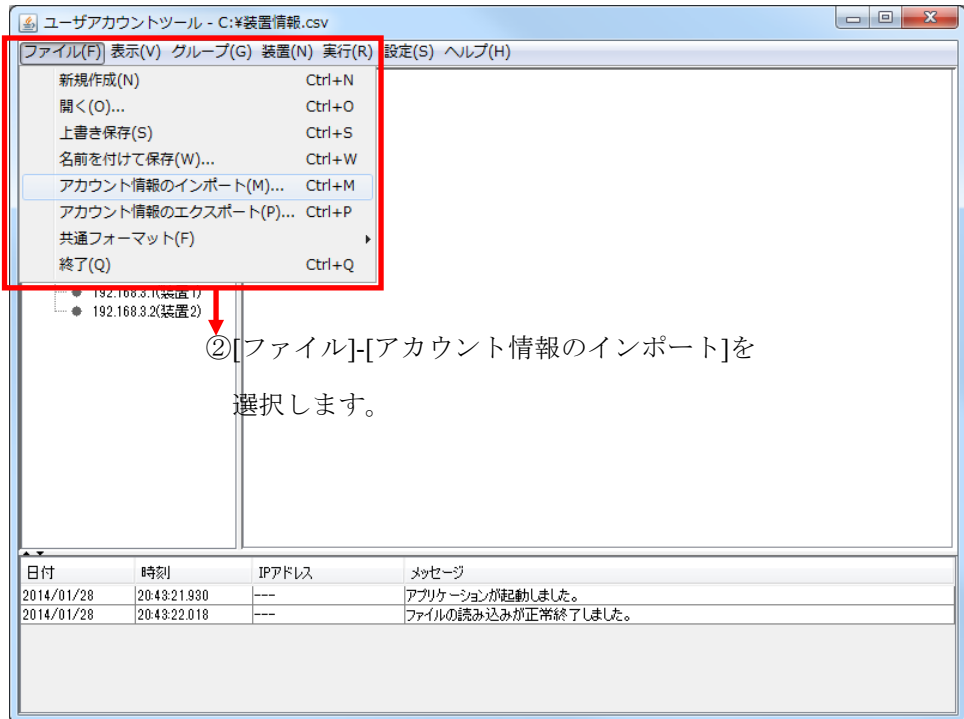
図 3-34 アカウントマスタのインポート (1)



(3) アカウントマスタのインポートファイルをインポートする

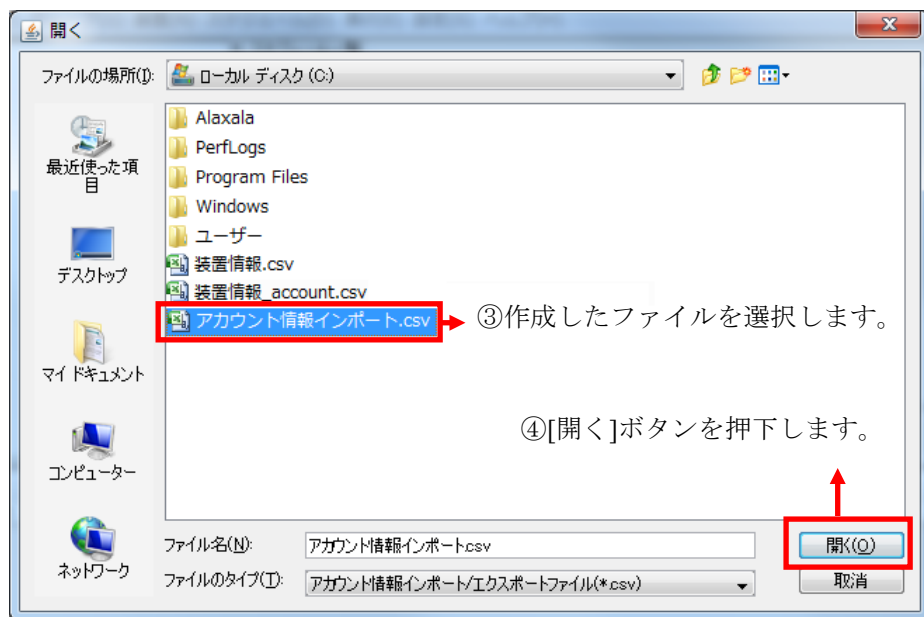
メニューから [ファイル] - [アカウント情報のインポート] を選択します。

図 3-35 アカウントマスタのインポート (2)



ファイルチューザが表示されるので、アカウントマスタのインポートファイルを選択して、[開く] ボタンを押下します。

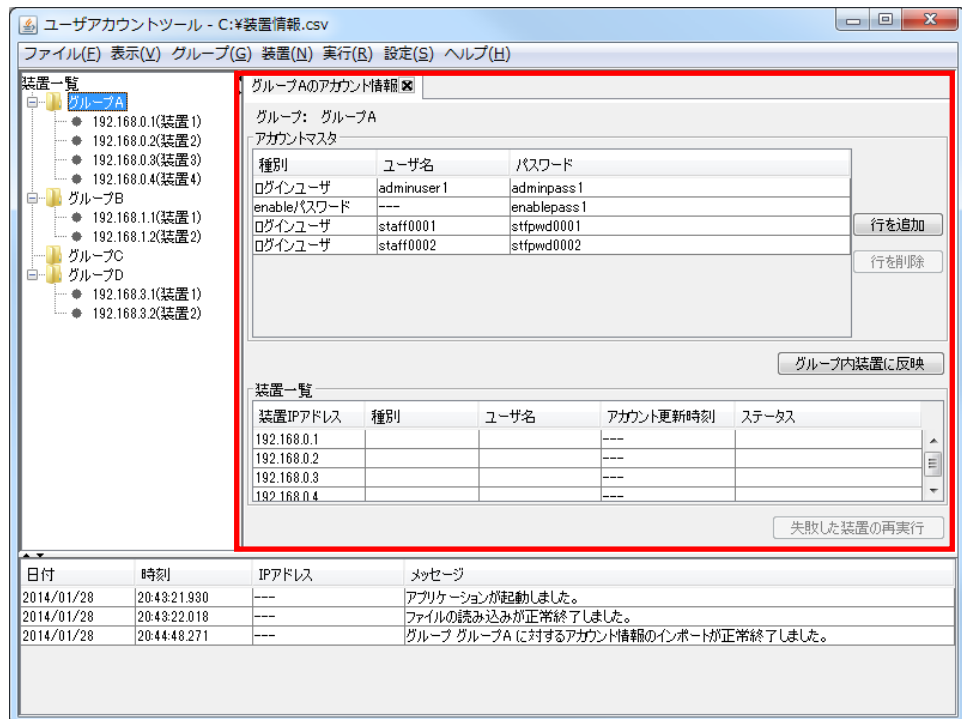
図 3-36 アカウントマスタのインポート (3)



インポート先のグループのアカウント情報タブが開き、インポートしたアカウ

ント情報を表示します。

図 3-37 アカウントマスタのインポート（4）



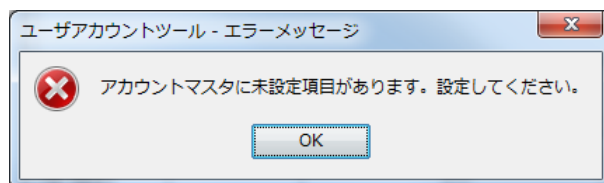
3.3.3 アカウントマスタのエクスポート

ここでは、ユーザアカウントツールのアカウントマスタのエクスポート方法について説明します。ユーザアカウントツール上で入力、作成したアカウントマスタの情報を、エクスポートして他のアプリケーションで再利用するためには以下の手順を実施してください。

(1) アカウントマスタ上で未設定のアカウント情報を確定する

まず、アカウントマスタのエクスポートに先立ち、アカウントマスタ上で未設定のアカウント情報を入力します。そのためには、アカウントマスタテーブル上で、[種別]，[ユーザ名]，[パスワード]の未設定なアカウント情報を探し、アカウント情報を確定してください。アカウントマスタに未設定のアカウント情報がある状態でアカウントマスタをエクスポートしようとする、以下のエラーメッセージが表示されます。

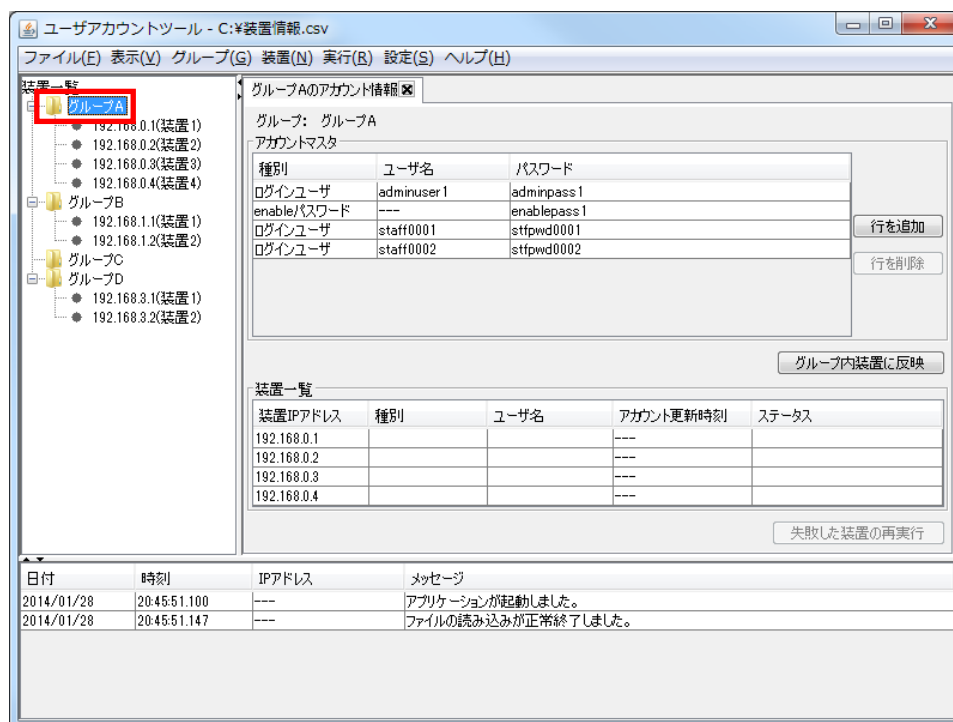
図 3-38 アカウントマスタのエクスポート (1)



(2) アカウントマスタのエクスポートを行う

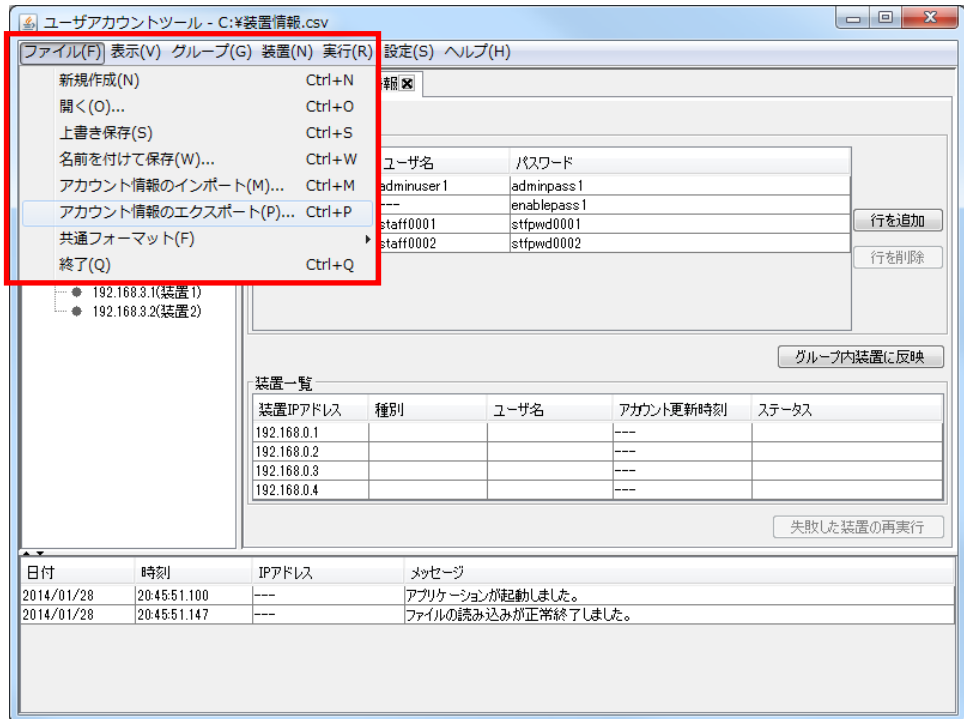
アカウントマスタの情報が確定できたら、エクスポート対象のアカウントマスタを持つグループを装置一覧ツリーで選択します。

図 3-39 アカウントマスタのエクスポート (2)



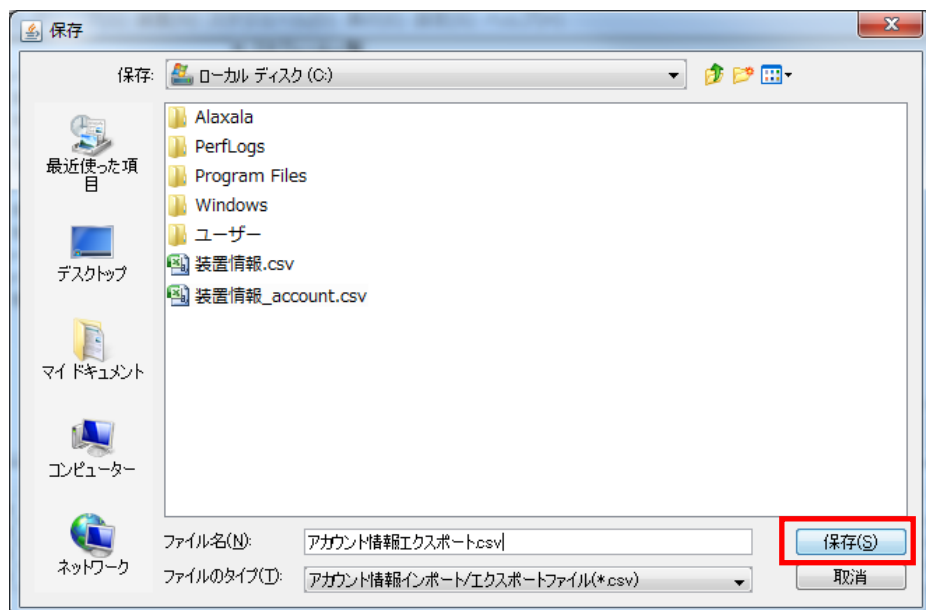
アカウントマスタをエクスポートする対象のグループを選択した後、メニューから [ファイル] - [アカウント情報のエクスポート] を選択します。

図 3-40 アカウントマスタのエクスポート (3)



エクスポート先のファイルを指定するためのファイルチューザが開くので、エクスポート先のファイルを選択して、[保存] ボタンを押下してください。

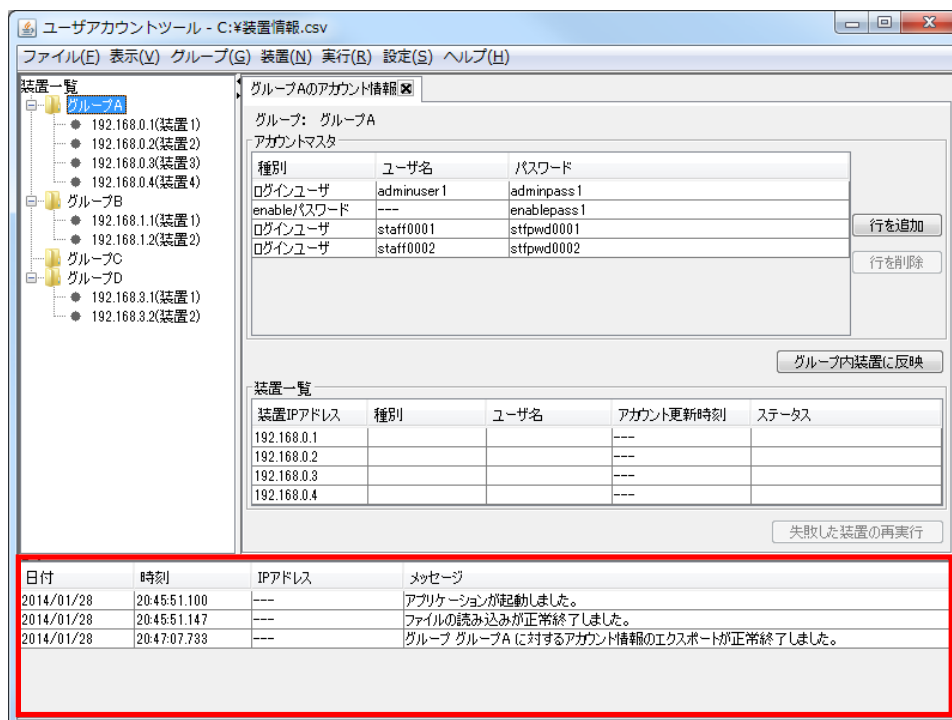
図 3-41 アカウントマスタのエクスポート (4)



アカウントマスタのエクスポートが成功すると、ログ情報テーブルにその旨の

ログメッセージが表示されます。

図 3-42 アカウントマスタのエクスポート (5)



3.3.4 アカウントマスタの保存

この節では、アカウントマスタの保存について説明致します。

本ツールは、全グループ分のアカウントマスタをひとまとめとし、1つのアカウント情報ファイルの中に格納します。

ユーザアカウントツールから、[ファイル]-[名前を付けて保存]、または、[ファイル]-[上書き保存]メニューを実行すると、アカウントマスタ情報が存在する場合には、装置情報ファイルと併せてアカウント情報ファイル（ファイル名が、「[装置情報ファイル名の拡張子(.csv)を除いた部分]_account.csv」のファイル※1）も生成されます。また、[ファイル]-[開く]メニューから、装置情報ファイルの読み込みを行う際に、同ファイル格納ディレクトリ内に、装置情報ファイルと同名のアカウント情報ファイルが存在すると、ユーザアカウントツールは、併せてアカウント情報ファイルの読み込みも行います。従って、用意した装置情報ファイルの読み込みを行う際には、同ファイル格納ディレクトリに、同名のアカウント情報ファイルが存在していないことを確認するか、存在する場合は、用意した装置情報ファイルと整合性がとれており、併せて読み込み可能なアカウント情報ファイルであることを確認してください。

※1 装置情報ファイル名が `node.csv` の場合、アカウント情報ファイルとして生成されるファイルは `node_account.csv` になります。

3.4 装置のアカウント情報の反映

この節では、作成したアカウントマスタの情報を装置へ反映する方法について説明します。

3.4.1 アカウント情報の反映を実施

アカウントマスタテーブルにアカウント情報を作成した後、装置一覧ツリーでアカウントを反映したいグループを選択し、〔グループ内装置に反映〕ボタンを押下することで、そのグループに所属する装置へアカウントマスタテーブルのアカウント情報を反映できます。

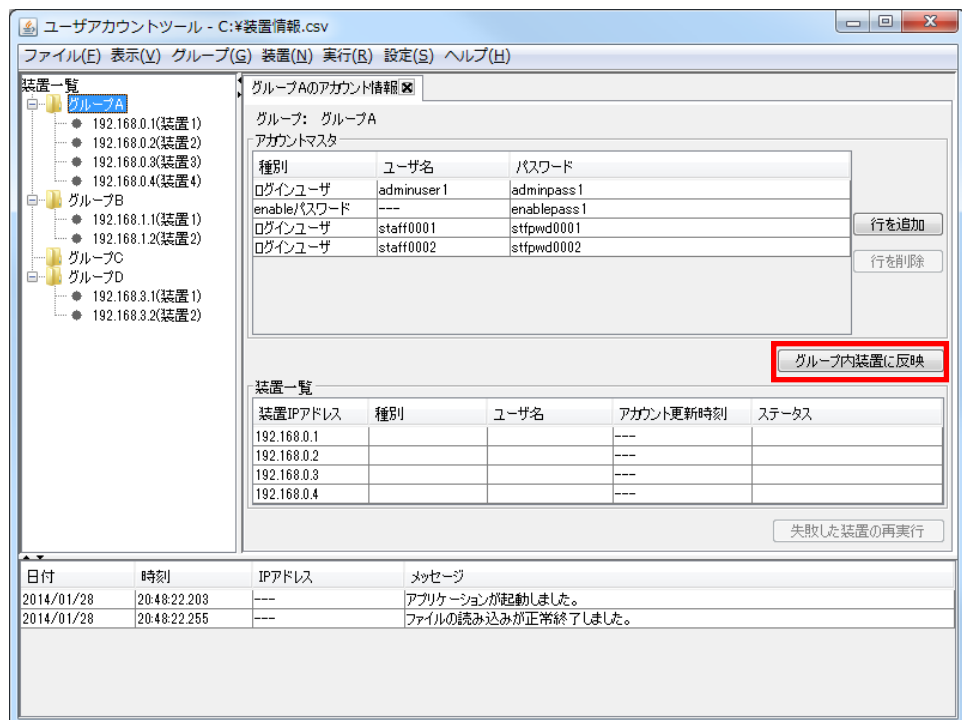
アカウントマスタテーブルに登録されているアカウント情報を装置へ反映すると、本ツールは装置上のアカウント情報をアカウントマスタテーブルの内容に同期させます。具体的には以下の動作を行います：

- ・ アカウントマスタテーブルに登録されていて、装置にも登録されているアカウント情報は、装置上のそのアカウント情報のパスワードが更新されます
- ・ アカウントマスタテーブルにのみ登録されていて、装置に登録されていないアカウント情報は、装置上にそのアカウント情報が追加されます
- ・ アカウントマスタテーブルに登録されておらず、装置のみに登録されているアカウント情報は、装置上からそのアカウント情報が削除されます

さらに、種別が「enable パスワード」のアカウント情報については、以下の動作となります：

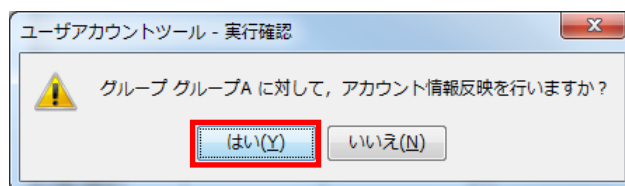
- ・ アカウントマスタテーブルに種別が「enable パスワード」のアカウント情報が登録されている場合、そのアカウント情報で装置上の enable のパスワードが更新されます
- ・ アカウントマスタテーブルに種別が「enable パスワード」のアカウント情報が登録されていない場合、装置上の enable のパスワードが削除（クリア）されます

図 3-43 アカウントマスタを装置へ反映（1）



[実行確認] 画面が表示されるので、〔はい〕 ボタンを押下します。

図 3-44 アカウントマスタを装置へ反映（2）



アカウント情報の反映に成功すると、装置一覧テーブルのアカウント更新時刻が更新されます。

図 3-45 アカウントマスタを装置へ反映 (3)

ユーザアカウントツール - C:*装置情報.csv

ファイル(E) 表示(V) グループ(G) 装置(N) 実行(R) 設定(S) ヘルプ(H)

装置一覧

- グループA
 - 192.168.0.1(装置1)
 - 192.168.0.2(装置2)
 - 192.168.0.3(装置3)
 - 192.168.0.4(装置4)
- グループB
 - 192.168.1.1(装置1)
 - 192.168.1.2(装置2)
- グループC
- グループD
 - 192.168.3.1(装置1)
 - 192.168.3.2(装置2)

グループAのアカウント情報

グループ: グループA

アカウントマスタ

種別	ユーザ名	パスワード
ログインユーザ	adminuser1	adminpass1
enable/パスワード	---	enablepass1
ログインユーザ	staff0001	stfpwd0001
ログインユーザ	staff0002	stfpwd0002

行を追加

行を削除

グループ内装置に反映

装置一覧

装置IPアドレス	種別	ユーザ名	アカウント更新時刻	ステータス
192.168.0.1	ログインユーザ	adminuser1	2014/01/28 20:48	アカウント情報反映終了(成功)
192.168.0.1	ログインユーザ	staff0001	2014/01/28 20:48	アカウント情報反映終了(成功)
192.168.0.1	ログインユーザ	staff0002	2014/01/28 20:48	アカウント情報反映終了(成功)
192.168.0.1	enable/パスワード	---	2014/01/28 20:48	アカウント情報反映終了(成功)

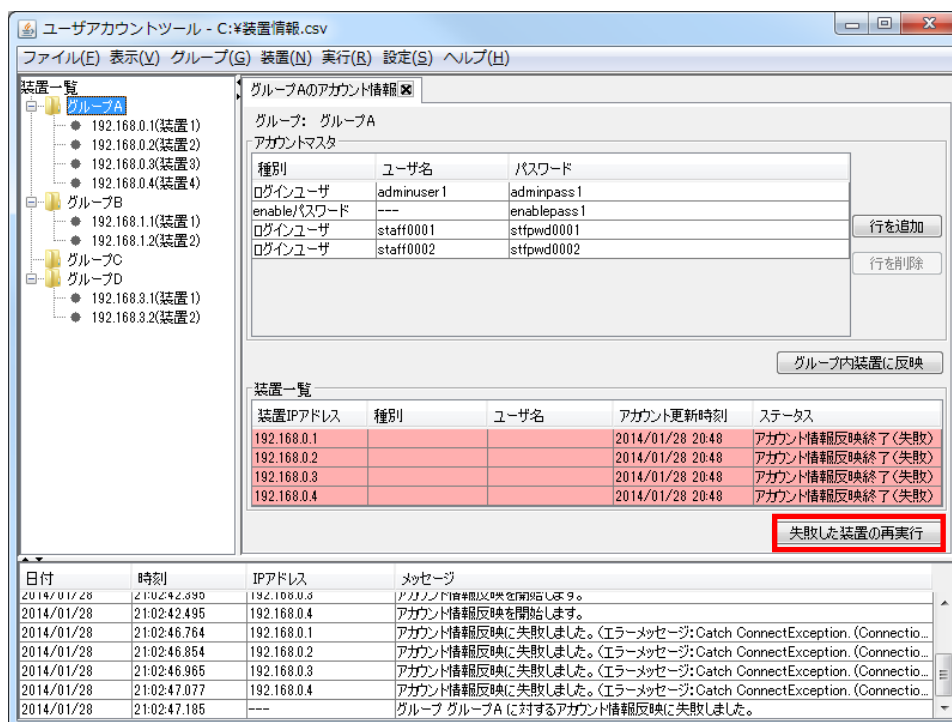
失敗した装置の再実行

日付	時刻	IPアドレス	メッセージ
2014/01/28	20:48:00.829	192.168.0.3	アカウント情報反映を開始します。
2014/01/28	20:48:50.928	192.168.0.4	アカウント情報反映を開始します。
2014/01/28	20:48:55.276	192.168.0.1	アカウント情報反映が正常終了しました。
2014/01/28	20:48:55.403	192.168.0.2	アカウント情報反映が正常終了しました。
2014/01/28	20:48:55.490	192.168.0.3	アカウント情報反映が正常終了しました。
2014/01/28	20:48:55.563	192.168.0.4	アカウント情報反映が正常終了しました。
2014/01/28	20:48:55.620	---	グループ グループA に対するアカウント情報反映が正常終了しました。

3.4.2 アカウント情報の反映を再実施

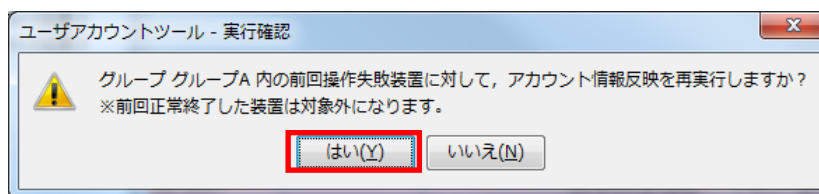
アカウント情報の更新が失敗した装置が存在する場合、その失敗した装置のみアカウント情報の反映を再実施することができます。そのためには、〔失敗した装置の再実行〕ボタンを押下します。

図 3-46 アカウントマスタを装置へ再反映（1）



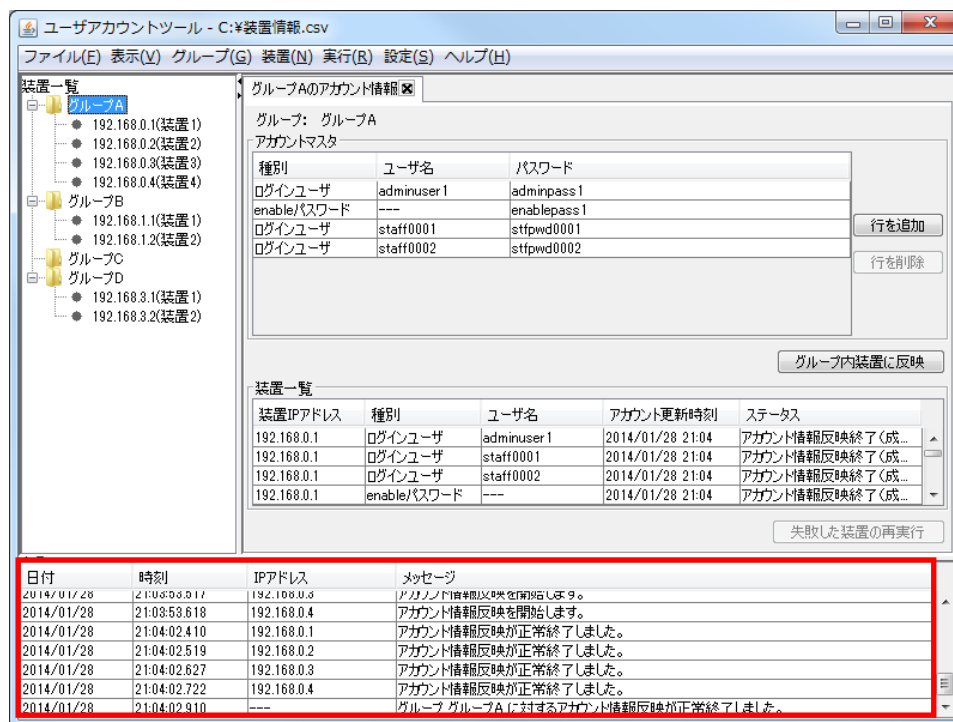
〔実行確認〕画面が表示されるので、〔はい〕ボタンを押下します。

図 3-47 アカウントマスタを装置へ再反映（2）



前回アカウント情報の更新が失敗した装置に対してのみアカウント情報の反映を行います。

図 3-48 アカウントマスタを装置へ再反映（3）



上の図では、今回はアカウント情報の更新に成功しました。

4. ツールの設定ファイル

この章では、ユーザアカウントツールの設定ファイルについて説明します。

[4.1 設定ファイル](#)

4.1 設定ファイル

ユーザアカウントツールは、起動時に設定ファイルの読み込みを行います。従って、ユーザアカウントツールを起動する前に、設定ファイルの内容を変更することで、ツールの動作を変更することができます。

4.1.1 設定ファイルの格納場所

設定ファイルは以下に格納されています。

<TARGETDIR>%UserAccountTool%UserAccountTool.properties

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:%Alaxala%AX-Networker's-Utility

4.1.2 設定ファイルの項目一覧

ユーザアカウントツールの設定ファイルに定義されている項目には、以下があります。なお、本表で記載されていない設定項目は、編集しないでください。

設定ファイルの編集はツールが起動していない時に行います。ツール起動中に設定ファイルの設定項目を編集した場合には、[ツール設定]画面で[OK]ボタンを押下した時、およびツールを終了した時に上書きされますので、ご注意ください。

表 4-1 ユーザアカウントツールの設定項目一覧

項番	項目	意味
1	LOG_FILE_NAME	動作ログファイルのファイル名です。※1※2※3 デフォルトは Table.log です。
2	LOG_FILE_SIZE	動作ログファイルのサイズです[単位：MB]。 デフォルトは 8[MB]です。半角数値 0～16 を指定可能です。0 を指定した場合はログが出力されま

		せん。上記以外の場合は 10[MB]で動作します。
3	LOG_KEEP_AMOUNT	<p>動作ログファイルは、ファイルサイズが LOG_FILE_SIZE で設定しているサイズに達すると、タイムスタンプが付与されたファイル名にリネームされて退避されますが、本項目は、動作ログファイル数の上限を定義します[単位：個]。ディレクトリ内に退避され蓄積したファイル数が、本項目の定義値に達すると、次回ログ退避時には、最古の退避ファイルが上書されます。</p> <p>デフォルトは 50[個]です。半角数値 1～50 を指定可能です。上記以外の場合はデフォルト値で動作します。</p>
4	LOG_OUTPUT_DIR	<p>動作ログ出力先ディレクトリです。</p> <p>デフォルトは table-log です。※1※2※3</p>
5	TRACE_LOG_FILE_NAME	<p>デバッグログファイルのファイル名です。</p> <p>デフォルトは Trace.log です。※1※2※3</p>
6	TRACE_LOG_FILE_SIZE	<p>デバッグログファイルのサイズです[単位：MB]。</p> <p>デフォルトは 8[MB]です。半角数値 0～16 を指定可能です。0 を指定した場合はログが出力されません。上記以外の場合は 10[MB]で動作します。</p>
7	TRACE_LOG_KEEP_AMOUNT	<p>デバッグログファイルは、ファイルサイズが LOG_FILE_SIZE で設定しているサイズに達すると、タイムスタンプが付与されたファイル名にリネームされて退避されますが、本項目は、デバッグログファイル数の上限を定義します[単位：個]。ディレクトリ内に退避され蓄積したファイル数が、本項目の定義値に達すると、次回ログ退避時には、最古の退避ファイルが上書されます。</p> <p>デフォルトは 50[個]です。半角数値 1～50 を指定可能です。上記以外の場合はデフォルト値で動作します。</p>
8	TRACE_LOG_LEVEL	<p>プログラムの中で指定したデバッグログの出力レベルがこの項目で指定した値と同じか高い場</p>

		<p>合にログを出力します。ログ出力レベルは高い順に次の3つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ERROR • INFO • DEBUG <p>デフォルトは INFO です。</p>
9	TRACE_LOG_OUTPUT	<p>デバッグログを出力するかどうかを指定します。ON に設定するとログが出力され、OFF に設定するとログは出力されません。</p> <p>デフォルトは ON です。</p>
10	TRACE_LOG_OUTPUT_DIR	<p>デバッグログ出力先ディレクトリです。</p> <p>デフォルトは trace-log です。※1※2※3</p>
11	common.appinstcheck.port	<p>本ツールが既に起動しているかどうかを確認する際に利用する TCP ポート番号です。5001～65535 の範囲から指定します。デフォルトは 9474 です。本ツールのデフォルトである TCP ポート 9474 が既に使用されており、別の TCP ポート番号へ変える場合、他のアプリケーションで利用している TCP ポート番号と重ならないように設定してください。他のアプリケーションが使用している TCP ポート番号を確認するには、コマンドプロンプト上で”netstat -an”コマンドを実行して、使用しているポートを確認してください。※4</p>
12	common.format.nodeinfo.import.duplicate.entry	<p>装置情報のインポートを行う際、インポート対象の装置情報の IP アドレスが、ツールが保持している既存の装置情報の IP アドレスと同じ場合、インポート対象の装置情報を読み飛ばすか、既存の装置情報をインポート対象の装置情報で入れ替えるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SKIP…インポート対象の装置情報を読み飛ばす • REPLACE…既存の装置情報をインポート対象の装置情報で入れ替える

	デフォルトは SKIP です。
--	------------------------

※1…ディレクトリ名およびファイル名として利用できない文字を設定した場合にはログが出力されなくなりますのでご注意ください。

※2…設定ファイル上では、指定値に以下の文字を含む場合、その文字の前に ¥ (半角円記号) を追加して指定してください。

[対象の文字]
¥ # ! = :

例：値 C:¥Documents and Settings¥operator#1¥trace を指定する場合
→設定ファイルでの指定値 (下線部が追加指定分)

C:¥Documents and Settings¥operator¥#1¥trace

※3…AX-Networker's-Utility の他のツールを利用している場合、

共通のディレクトリ名およびファイル名を指定しないでください。

※4…本ツール用の TCP ポート番号が使用されているかどうかを確認するにはコマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
netstat -an | findstr ":9474"
```

本ツール用の TCP ポート番号が使用されている場合には、以下のように表示されます。左から 2 番目の文字列の末尾が "9474" になります。

```
TCP    127.0.0.1:9474          0.0.0.0:0          LISTENING
```

本ツール用の TCP ポート番号が使用されていない場合には、何も表示されません。

本ツールおよび他のアプリケーションで利用している TCP ポート番号を確認するには、コマンドプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
netstat -an | findstr "TCP"
```

本ツールおよび他のアプリケーションで利用しているポート番号は、以下のように表示されます。左から 2 番目の文字列の : 文字の後ろが TCP ポート番号です。

```
TCP    0.0.0.0:135            0.0.0.0:0          LISTENING
TCP    0.0.0.0:445            0.0.0.0:0          LISTENING
TCP    127.0.0.1:9474         0.0.0.0:0          LISTENING
```

: : : :

(以下省略)

本ツールで利用する TCP ポート番号をデフォルトから変更する場合には
上記の利用しているポート番号以外を指定してください。

5. トラブルシューティング

この章では、ユーザアカウントツールのトラブルシューティングについて説明します。

[5.1 トラブル発生時の対応](#)

[5.2 メッセージ一覧](#)

[5.3 ログファイル](#)

5.1 トラブル発生時の対応

本ツールの操作中に発生するトラブルへの対応方法を解説します。

表 5-1 トラブル発生時の対応方法

項番	現象
	原因
	対応方法
1	ツールの操作により、[装置情報設定]画面や、[グループ情報設定]画面等の画面を開いたところ、入力項目のないグレーの画面が表示された。
	ツールの操作により画面を開いた際、まれに、入力項目のないグレーの画面が表示される場合があります。
	一度[×]ボタンで画面を閉じ、操作を再度行って画面を開き直してください。
2	アカウント情報収集や反映（[実行]操作）を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。 メッセージ： ・「アカウント情報取得に失敗しました。（エラーメッセージ：[エラーメッセージ]）」 ・「アカウント情報反映に失敗しました。（エラーメッセージ：[エラーメッセージ]）」
	以下が原因として考えられます。
	①ツールに登録した装置の IP アドレスが誤っている。
	②「 2.2 装置の設定を行う 」に記載の設定が行われていない。
	③装置側の設定、もしくは、ユーザアカウント管理 PC（本ツールを起動している PC）側のネットワーク設定に起因して、ユーザアカウント管理 PC と装置間が、通信不可の状態になっている。
④ユーザアカウント管理 PC（本ツールを起動している PC）と、装置間の回線が物理的に切断している。	
⑤装置起動直後等、一時的にアカウント情報収集や反映ができない状態になっている。	
①または②に問題が無いかどうか、確認してください。	
①が原因の場合は、[装置]-[編集]操作により、装置の IP アドレスを修正したのち、[実行]操作を再度実行してください。	
②が原因の場合は、「 2.2 装置の設定を行う 」の内容に従って装置の設定を行った後、[実行]操作を再度実行してください。	
①、②に問題が無い場合は、③または④について確認し、ユーザアカウント管理 PC と、装置間を通信可能な状態に復旧してください。	
通信状態にも問題が無い場合は、[実行]操作を再度実行してください。	

3	<p>アカウント情報収集 ([実行]操作) を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アカウント情報取得に失敗しました。(要因: オペレーションに失敗, エラーメッセージ: ERR0300 : Fatal error. Cannot generate 'message ID' for connection.)」 <p>ツールと装置間の通信時に利用するファイルの内容が不正な内容になっていることが原因として考えられます。</p> <p>以下のファイルを削除して、実施した操作を再度行ってください。</p> <pre><TARGETDIR>%UserAccountTool%message.count</pre> <pre><TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストールディレクトリ</pre> <p>デフォルトは C:%Alaxala%AX-Networker’s-Utility</p>
4	<p>アカウント情報の収集または反映を実施しようとしたが、メッセージ「処理中にメモリ不足エラーが発生しました。」が表示され、収集に失敗した。</p> <p>アカウント情報の収集または反映の際、一時的にメモリが不足したことが原因として考えられます。</p> <p>「2.3 ユーザアカウント管理 PC の設定を行う (2) 利用可能な最大メモリサイズを変更する」に記載の手順に従い、本ツールが利用可能な最大メモリサイズを変更してください。</p>
5	<p>アカウント情報の反映を実施しようとしたが、メッセージ「アカウント情報反映に失敗しました。(エラーメッセージ: Specified account information is invalid.)」が表示され、失敗した。</p> <p>指定されたログインアカウントのユーザ名は利用できません。</p> <p>違うユーザ名を指定してください。</p>
6	<p>アカウント情報収集や反映 ([実行]操作) を行ったところ、ログ情報テーブルに以下のメッセージが表示され、操作が失敗終了した。</p> <p>メッセージ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アカウント情報取得に失敗しました。(エラーメッセージ: Can't register specified account. The maximum number of user accounts has been reached.)」 ・「アカウント情報反映に失敗しました。(エラーメッセージ: Can't register specified account. The maximum number of user accounts has been reached.)」 <p>装置上にユーザアカウントの数が 10 個以上登録されています。ユーザアカウントツールから操作する装置は、装置上に登録されているユーザアカウントの数が 9 個以内である必要があります。</p> <p>装置上のユーザアカウントの数を 9 個以内にして再度操作を行ってください。</p>

5.2 メッセージ一覧

(1) ユーザアカウントツールのダイアログ表示メッセージ一覧

ユーザアカウントツールのダイアログ上で表示されるメッセージの一覧を次の表に示します。

表 5-2 ダイアログ表示メッセージ一覧

項番	メッセージ	補足
1	グループ名は 1~32 文字の文字列で入力してください。	グループ名の入力値が不正です。
2	そのグループ名を持つグループは既に存在します。	グループ名はツール上で一意にする必要があります。
3	IPアドレスは10進ドット記法のIPv4アドレスで入力してください。	IPアドレスの入力値が不正です。
4	そのIPアドレスを持つ装置は既に存在します。	IPアドレスはツール上で一意にする必要があります。
5	装置名は 0~64 文字の文字列で入力してください。	装置名の入力値が不正です。
6	そのIPアドレスは装置に設定できないアドレスです。再度入力してください。	以下のIPアドレスは入力できません。 ・ 0.*.*.* ・ 127.*.*.* ・ 224~255.*.*.* *...0~255
7	設定ファイルの保存に失敗しました。	設定ファイル「UserAccountTool.properties」の保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、設定ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしているか、あるいは、設定ファイルが読み取り専用属性になっていないかを確認してください。
8	本ツールは同時に2つ以上起動できません。またはポートが使用されています。終了します。	本ツールがすでに起動しているか、本ツールが使用するTCPポート(デフォルトは9474)が使用されています。

		別のアプリケーションで TCP ポート 9474 が利用されている場合は、そのアプリケーションを終了させるか、「 4.1.2 設定ファイルの項目一覧 」記載の <code>common.appinstcheck.port</code> の値を変更して本ツールを起動させてください。
9	本ツールの起動チェックに失敗しました。終了します。	本ツールの 2 重起動チェックに失敗しました。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
10	装置情報ファイルの上書き保存に失敗しました。	装置情報ファイルの上書き保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、装置情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしているか、あるいは、装置情報ファイルが読み取り専用属性になっていないかを確認してください。
11	装置情報ファイルの保存に失敗しました。	装置情報ファイルの保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、装置情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしているか、あるいは、装置情報ファイルが読み取り専用属性になっていないか、確認してください。
12	装置情報ファイル名に「_account」を含めることはできません。他のファイル名を指定してください。	装置情報ファイル名に「_account」を含めることはできません。
13	アカウント情報ファイルの上書き保存に失敗しました。	アカウント情報ファイルの上書き保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、アカウント情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしているか、あるいは、アカウント情報ファイルが読み取り専用属性になっていないかを確認してください。

14	アカウント情報ファイルの保存に失敗しました。	アカウント情報ファイルの保存に失敗しました。本メッセージが表示された場合は、アカウント情報ファイルを外部のエディタ等で開いたままの状態にしていな いか、あるいは、アカウント情報ファイルが読み取り専用属性になっていない か、確認してください。
15	アカウントマスタに未設定項目があります。設定してください。	アカウントマスタの保存やエクスポート、装置への反映を行う際には、アカウントマスタ情報をすべて入力し、確定してください。
16	パスワードは 6～16 文字の半角英数字で入力してください。	パスワードの入力値が不正です。
17	ログインユーザのユーザ名は半角英数字で始まる 1～16 文字の半角英数字で設定してください。	ログインユーザのユーザ名の入力値が不正です。
18	ログインユーザのパスワードは 1～128 文字の半角文字で設定してください。	ログインユーザのパスワードの入力値が不正です。
19	ログインユーザのユーザ名として使用できません。	ログインユーザのユーザ名の入力値が不正です。別のユーザ名を指定してください。
20	ログインユーザのユーザ名が既に登録されています。	指定したログインユーザのユーザ名はアカウントマスタ内で既に存在します。別のユーザ名を指定してください。
21	enable パスワードは 1～128 文字の半角英数字で設定してください。	enable のパスワードの入力値が不正です。
22	ログインユーザは 9 件までしか設定できません。	アカウントマスタ内で 10 件目のログインユーザを設定しようとした場合に 表示されるメッセージです。ログインユーザは 9 件までにしてください。
23	enable パスワードは 1 件しか設定できません。	アカウントマスタ内で 2 件目の enable のパスワードを設定しようとした場合に 表示されるメッセージです。 enable のパスワードは 1 件のみ指定してください。
24	装置情報が保存されていません。保	ツール上の情報が装置情報ファイルに未

	存しますか？	保存の状態では、ツールを終了しようとした場合に表示される確認メッセージです。
25	グループ [グループ名] を削除します。グループ [グループ名] に設定されているアカウント情報も合わせて削除します。よろしいですか？	グループの削除を行う際に表示される確認メッセージです。
26	装置 [IP アドレス(装置名)] を削除しますか？	装置の削除を行う際に表示される確認メッセージです。
27	グループ [グループ名] に対して、アカウント情報取得を行いますか？	グループに対してアカウント情報取得を行う際に表示される確認メッセージです。
28	グループ [グループ名] に対して、アカウント情報反映を行いますか？	グループに対してアカウント情報反映を行う際に表示される確認メッセージです。
29	グループ [グループ名] に対して、アカウント情報反映を行いますか？ アカウントマスタに種別が enable パスワードのエントリが登録されていないため、装置の enable パスワードが削除されます。 よろしいですか？	グループに対してアカウント情報反映を行う際に表示される確認メッセージです。アカウントマスタに種別が enable パスワードのエントリが定義されていない場合、装置の enable パスワードが削除されることとなりますが、それで良いか、注意を促すメッセージを表示します。
30	グループ [グループ名] 内の前回操作失敗装置に対して、アカウント情報反映を再実行しますか？ ※前回正常終了した装置は対象外になります。	グループに対してアカウント情報反映の再実行を行う際に表示される確認メッセージです。
31	ログインユーザのパスワードは 6 文字以上を推奨します。	ログインユーザのパスワードの入力値に関する警告メッセージです。
32	ログインユーザのパスワードは英小文字だけでなく、英大文字、記号や数字の併用を推奨します。	ログインユーザのパスワードの入力値に関する警告メッセージです。
33	enable パスワードは 6 文字以上を推奨します。	enable のパスワードの入力値に関する警告メッセージです。
34	enable パスワードは英小文字だけでなく、英大文字、記号や数字の併用	enable のパスワードの入力値に関する警告メッセージです。

	を推奨します。	
35	選択中の行を削除しますか？	アカウントマスタのアカウント情報を削除する際の確認メッセージです。

(2) ユーザアカウントツールのログ情報テーブルに表示されるメッセージ一覧

ユーザアカウントツールのログ情報テーブル上に表示されるメッセージの一覧を次の表に示します。

表 5-3 ログ情報テーブル表示メッセージ一覧

項番	メッセージ	内容
1	設定ファイルの保存に失敗しました。	設定ファイル「UserAccountTool.properties」の保存に失敗しました。設定ファイルが外部のエディタで開かれており、ロックがかかっている状態か、ファイルが読み取り専用属性になっている可能性があります。設定ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
2	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(ファイルの内容が不正です。ファイル名=[ファイル名])	ファイルの内容が不正です。ファイルの内容を確認してください。
3	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(デリミタが不正です。デリミタ=[デリミタ])	ファイルの区切り文字が不正です。ファイルの内容を確認してください。
4	ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番号], [項目名]=[値])	ファイルの内容が不正です。該当の項目の値を修正した後、ファイルの読み込みを行ってください。
5	ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番号], [項目名]=[項目名])	ファイルで[項目名]で示される項目の値の重複を検知しました。[項目名]の[値]を確認および修正した後、ファイルの読

	名]=[値])	み込みを行ってください。
6	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(ファイル[ファイル名]が見つかりません。)	ファイルを読み込んだ際、指定したファイルが見つからなかった場合に本メッセージが表示されます。 再度読み込むファイルの選択を行ってください。
7	ファイル読み込み時に登録済みの装置を検出しました。読み込みをスキップします。(IP アドレス=[IP アドレス], 装置名=[装置名])	インポートファイルを読み込んだ際、既に登録済みの装置と同一の IP アドレスを持つエントリを発見しました。登録済み装置の情報を優先し、インポートファイルの内容を読み飛ばします。
8	ファイル読み込み時に登録済みの装置を検出しました。登録済み装置を更新します。(IP アドレス=[IP アドレス], 装置名=[装置名])	インポートファイルを読み込んだ際、既に登録済みの装置と同一の IP アドレスを持つエントリを発見しました。登録済み装置の情報を上書きします。
9	処理中にエラーが発生しました。前提ソフトウェア、または、インストール時に展開された JAR ファイルが所定のディレクトリに存在しない可能性があります。	AX-Networker's-Utility ユーザーズガイド (インストール編) および本ユーザーズガイドを参照し、前提ソフトウェアのファイルおよびインストール時に展開されたファイルがインストール先ディレクトリに存在するかどうかを確認してください。ファイルが存在しない場合には、再度インストール作業を行う必要があります。
10	処理中にメモリ不足エラーが発生しました。	処理中にメモリが不足しました。本メッセージが表示された場合は、 「5.1 トラブル発生時の対応」 の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照し、ツールへ割り当てるメモリの量を拡大してください。それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。
11	処理中にエラーが発生しました。	処理中に予期しないエラーが発生しました。本メッセージが表示された場合は、販売元に問い合わせてください。
12	ファイルの読み込みに失敗しました。	[ファイル]-[開く]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。

		<p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。指定した装置情報ファイルまたはアカウント情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。</p>
13	ファイルの上書き保存に失敗しました。	<p>[ファイル]-[上書き保存]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「装置情報ファイルの保存に失敗しました。」</p> <p>「アカウント情報ファイルの保存に失敗しました。」</p>
14	ファイルの保存に失敗しました。	<p>[ファイル]-[名前を付けて保存]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「装置情報ファイルの保存に失敗しました。」</p> <p>「アカウント情報ファイルの保存に失敗しました。」</p>
15	アプリケーションが正常終了しました。	<p>本ツール終了時に、ツールの設定情報や装置情報をファイルに保存できなかった</p>

		<p>場合に、本メッセージが表示されます。</p> <p>本メッセージが出力された場合は、ツールの設定ファイルや装置情報ファイルが、読み取り専用になっている可能性があります。</p> <p>設定ファイルや装置情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p>
16	装置情報のクリアに失敗しました。	<p>[ファイル]-[新規作成]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。</p>
17	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のインポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[アカウント情報のインポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。指定したインポートファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。</p>
18	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のエクスポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[アカウント情報のエクスポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>エクスポート先のファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてくださ</p>

		い。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
19	グループの追加に失敗しました。	[グループ]-[追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
20	グループ情報の更新に失敗しました。	[グループ]-[編集]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
21	グループの削除に失敗しました。	[グループ]-[削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
22	装置の追加に失敗しました。	[装置]-[追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
23	装置情報の更新に失敗しました。	[装置]-[編集]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
24	装置の削除に失敗しました。	[装置]-[削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行って

		も表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
25	グループ [グループ名] のアカウント情報追加に失敗しました。	アカウントマスタテーブルで[行を追加]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
26	グループ [グループ名] のアカウント情報削除に失敗しました。	アカウントマスタテーブルで[行を削除]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが表示された場合、再度操作を行ってください。再度操作を行っても表示される場合は、販売元に問い合わせてください。
27	グループ [グループ名] に対するアカウント情報取得に失敗しました。	[実行]-[アカウント情報取得]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 グループ内の装置が1台でも失敗した場合に出力されます。 本メッセージとともに出力される以下のメッセージの内容を確認してください。 「アカウント情報取得に失敗しました。」
28	グループ [グループ名] に対するアカウント情報反映に失敗しました。	[実行]-[アカウント情報反映]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 グループ内の装置が1台でも失敗した場合に出力されます。 本メッセージとともに出力される以下のメッセージの内容を確認してください。 「アカウント情報反映に失敗しました。」
29	ツール設定の更新に失敗しました。	ツール設定の更新操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。 本メッセージが出力された場合は、設定ファイルが外部のエディタで開かれてお

		<p>り、ロックがかかっている状態か、ファイルが読み取り専用属性になっている可能性があります。</p> <p>設定ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p>
30	アカウント情報取得に失敗しました。	<p>アカウント情報取得に失敗した場合に表示されます。</p> <p>本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。</p>
31	アカウント情報反映に失敗しました。	<p>アカウント情報反映に失敗した場合に表示されます。</p> <p>本メッセージが表示された場合は、「5.1 トラブル発生時の対応」の「表 5-1 トラブル発生時の対応方法」を参照してください。それでもエラーが解消されない場合には販売元に問い合わせてください。</p>
32	ファイル読み込み中にエラーを検出しました。 ([項目名]が[件数]件以上登録されています。ファイル名=[ファイル名], 行番号=[行番号])	<p>アカウント情報ファイルの読み込みでエラーを検出した場合に表示されます。アカウント情報ファイルのアカウントマスター情報で、ログインユーザまたは enable のパスワードの件数を確認してください。</p>
33	アプリケーションが起動しました。	<p>アプリケーション起動時に必ず出力されます。</p>
34	ファイルの読み込みが正常終了しました。	<p>[ファイル]-[開く]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。</p>
35	ファイル読み込みをキャンセルしました。	<p>[ファイル]-[開く]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。</p>
36	ツール上の情報をファイルに上書き保存しました。	<p>[ファイル]-[上書き保存]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログ</p>

		です。
37	ツール上の情報をファイルに保存しました。	[ファイル]-[名前を付けて保存]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
38	ファイルの保存をキャンセルしました。	[ファイル]-[名前を付けて保存]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
39	アプリケーションを終了しました。	[ファイル]-[終了]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
40	アプリケーションの終了をキャンセルしました。	[ファイル]-[終了]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
41	装置情報をクリアしました。	[ファイル]-[新規作成]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
42	装置情報のクリアをキャンセルしました。	[ファイル]-[新規作成]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
43	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のインポートが正常終了しました。	[ファイル]-[アカウント情報のインポート]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
44	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のインポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[アカウント情報のインポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
45	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のエクスポートが正常終了しました。	[ファイル]-[アカウント情報のエクスポート]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
46	グループ [グループ名] に対するアカウント情報のエクスポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[アカウント情報のエクスポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
47	装置情報をインポートしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
48	装置情報のインポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。

49	装置情報をエクスポートしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
50	装置情報のエクスポートをキャンセルしました。	[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
51	グループを追加しました。	[グループ]-[追加]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
52	グループの追加をキャンセルしました。	[グループ]-[追加]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
53	グループ情報を更新しました。	[グループ]-[編集]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
54	グループ情報の更新をキャンセルしました。	[グループ]-[編集]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
55	グループを削除しました。	[グループ]-[削除]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
56	グループの削除をキャンセルしました。	[グループ]-[削除]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
57	装置を追加しました。	[装置]-[追加]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
58	装置の追加をキャンセルしました。	[装置]-[追加]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
59	装置情報を更新しました。	[装置]-[編集]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
60	装置情報の更新をキャンセルしました。	[装置]-[編集]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
61	装置を削除しました。	[装置]-[削除]操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。
62	装置の削除をキャンセルしました。	[装置]-[削除]操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
63	ツール設定を更新しました。	ツール設定の更新操作が正常終了した場合に表示される操作イベントログです。

64	ツール設定の更新をキャンセルしました。	ツール設定の更新操作をキャンセルした場合に表示される操作イベントログです。
65	グループ [グループ名] に対するアカウント成情報取得を開始します。	指定グループ内のアカウント情報取得を開始する際に出力されます。
66	グループ [グループ名] に対するアカウント情報取得が正常終了しました。	指定グループ内のアカウント情報取得が正常終了した際に出力されます。
67	グループ [グループ名] に対するアカウント情報取得をキャンセルしました。	実行中画面の [中止] ボタンを押下し、指定グループ内の装置に対するアカウント取得をキャンセルした際に出力されます。
68	グループ [グループ名] に対するアカウント情報反映を開始します。	指定グループ内のアカウント情報反映を開始する際に出力されます。
69	グループ [グループ名] に対するアカウント情報反映が正常終了しました。	指定グループ内のアカウント情報反映が正常終了した際に出力されます。
70	グループ [グループ名] に対するアカウント情報反映をキャンセルしました。	実行中画面の [中止] ボタンを押下し、指定グループ内の装置に対するアカウント情報反映をキャンセルした際に出力されます。
71	処理を中止します。	実行中画面の [中止] ボタンを押下し、装置に対する操作をキャンセルした際に出力されます。
72	グループ [グループ名] のアカウント情報を追加しました。	アカウント情報タブの [行を追加] ボタンを押下した際に出力されます。
73	グループ [グループ名] のアカウント情報を削除しました。	アカウント情報タブの [行を削除] ボタンを押下した際に出力されます。
74	アカウント情報取得を開始します。	装置に対してアカウント情報取得を開始する際に出力されます。
75	アカウント情報取得が正常終了しました。	装置に対してアカウント情報取得が正常終了した際に出力されます。
76	アカウント情報反映を開始します。	装置に対してアカウント情報反映を開始する際に出力されます。
77	アカウント情報反映が正常終了しました。	装置に対してアカウント情報反映が正常終了した際に出力されます。

78	ログのファイル出力に失敗しました。	<p>動作ログのファイルへの出力に失敗した場合に出力されるエラーメッセージです。動作ログの格納ディレクトリの作成に失敗したか、動作ログファイルの書き込みに失敗しました。</p> <p>動作ログファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。動作ログファイルおよび出力先ディレクトリが読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p> <p>動作ログファイルおよび出力先ディレクトリについては設定ファイル内容を参照ください。</p>
79	アカウント情報のインポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[アカウント情報のインポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。指定したインポートファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。</p>
80	アカウント情報のエクスポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[アカウント情報のエクスポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>エクスポート先のファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p>

81	装置情報のインポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[共通フォーマット]-[インポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>本メッセージとともに出力される以下のいずれかのメッセージの内容を確認してください。</p> <p>「ファイル読み込み中にエラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に不正な値を検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>「ファイル読み込み中に重複登録エラーを検出しました。(エラーメッセージ)」</p> <p>上記メッセージが出力されていない場合は以下の対処を行ってください。</p> <p>指定したファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。</p>
82	装置情報のエクスポートに失敗しました。	<p>[ファイル]-[共通フォーマット]-[エクスポート]操作に失敗した場合に表示される操作イベントログです。</p> <p>エクスポート先のファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p>
83	装置情報ファイルの保存に失敗しました。	<p>[ファイル]-[上書き保存]操作または[ファイル]-[名前を付けて保存]操作で装置情報ファイルの保存に失敗した場合に出力されます。</p> <p>保存先の装置情報ファイルを外部のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。</p>
84	アカウント情報ファイルの保存に失敗しました。	<p>[ファイル]-[上書き保存]操作または[ファイル]-[名前を付けて保存]操作でアカウント情報ファイルの保存に失敗した場合に出力されます。</p> <p>保存先のアカウント情報ファイルを外部</p>

		のエディタで開いている場合は閉じてください。読み取り専用属性になっている場合はアクセス権を設定してください。
--	--	--

5.3 ログファイル

ユーザアカウントツールでは以下 2 種類のログファイルが障害解析用に出力されます。それぞれのログファイルに格納される情報および格納先ディレクトリを説明します。

- ・動作ログファイル

ログ情報テーブルに表示された内容すべてを記録したファイルです。デフォルトでは、以下のディレクトリに格納されています。

<TARGETDIR>%UserAccountTool%\table-log

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\%Alaxala%\AX-Networker’s-Utility

- ・デバッグログファイル

ユーザアカウントツールの動作内容や、エラー情報を記録した障害解析用のファイルです。デフォルトでは、以下のディレクトリに格納されています。

<TARGETDIR>%UserAccountTool%\trace-log

<TARGETDIR>…AX-Networker’s-Utility インストール先ディレクトリ

デフォルトは C:\%Alaxala%\AX-Networker’s-Utility